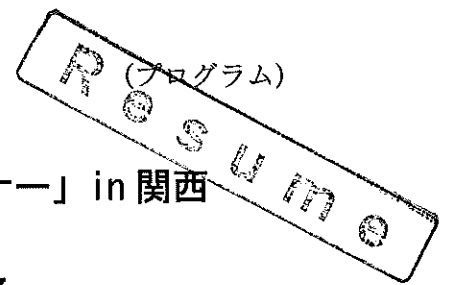


当日配布資料
関西



2007 年度「NGO のアカウンタビリティ強化セミナー」 in 関西
「信頼できる NGO」になろう
～アカウンタビリティが NGO を成長させる～

日 時： 2007 年 7 月 21 日（土）13 時 30 分～17 時 30 分（受付開始 13 時）
会 場： 京都産業会館 レンタルスペース第 1
主 催： 外務省
運 営： （特活）国際協力 NGO センター
運 営 協 力： （特活）関西 NGO 協議会、（特活）名古屋 NGO センター

■ プ ロ グ ラ ム 内 容 ■

全体コーディネイター：伊藤 公男さん （特活）関西 NGO 協議会会員

13:30～14:20 グループワークと講義： アカウンタビリティはなぜ必要？

講 師：新田 和宏さん 近畿大学生物理工学部教員、
地球市民教育総合研究所長

アカウンタビリティを実践することは、NGO にどんな成果をもたらすので
しょうか。ケーススタディを通じて、活動を説明する事の意義をしっかりと理
解します。

14:20～15:20 模 擬 コ ン ペ： 支援団体に対するアカウンタビリティ

講 師：松吉 徹也さん 松下電器産業株式会社 社会文化グループ
フィランソロピーチーム主事

企業や助成財団は、NGO にどのようなアカウンタビリティを求めているので
しょうか。参加団体のプレゼンテーションを講師陣が採点し、講評セッシ
ョンを通して支援団体が求めるアカウンタビリティについて理解します。

15:20～15:35 ～～～ 休 憩 ～～～

15:35～16:20 講 義： 支援者に対するアカウンタビリティ

講 師：和田 美穂さん （社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

支援者が求めるアカウンタビリティを理解し、相手に応じたコミュニケー
ションを取る事は容易ではありません。NGO の経験談から、実践へのヒント
をつかみます。

16:20～16:50 講 義： アカウンタビリティの実践システム

講 師：新田 和宏さん

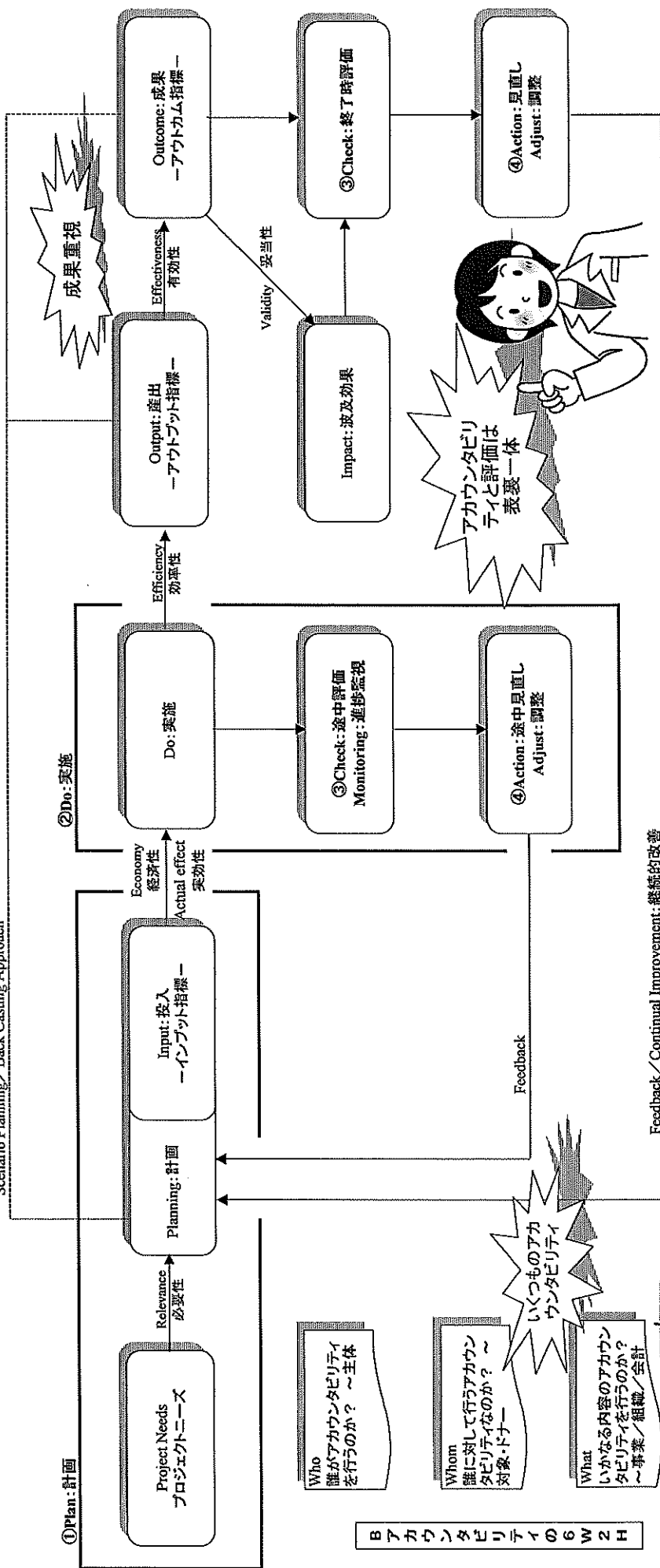
今回気づいた事を多忙な日常活動の中に落とし込むには、頭の整理が必要
です。活動の各局面におけるアカウンタビリティを押さえ、明日からの実
践につなげます。

16:50～17:05 ～～～ 休 憩 ～～～

17:05～17:30 ～～～ 質 疑 応 答 ～～～

A. アカウンタビリティとマネジメント・システム

Scenario Planning / Back Casting Approach



C. NGOのアカウンタビリティのポイント

- ①. Communication: とりわけ、ドナーとのコミュニケーションを深める。
- ②. Presentation: プレゼンのコンテンツつまりシナリオとツールの用意。
- ③. Framing: 説明すべきポイントの絞り込みと枠組みの提示。
- ④. Indicate: 数値指標を用いる。
- ⑤. Publicity: アカウンタビリティは戦略的広報。

ベスト・プラティクス(最優良実践)を求めるNGOのグッド・マネジメント(健全なマネジメント)/事務局

ベスト・プラティクス(最優良実践)を指向するNGOのグッド・ガバナンス(健全なガバナンス)/理事会

NGOのアカウントビリティ・システム チェック・シート(プロジェクト系)

Who	Whom	What	How	When	Where	Why	How much
Project Needs: プロジェクト・ニーズ	Planning: 計画 / Input: 投入	Do: 実施	Output: 産出	Outcome: 成果	Impact: 影響		
Relevance: 必要性	Economy: 経済性 Actual effect: 実効性	Efficiency: 効率性	Effectiveness: 有効性	Validity: 妥当性			
Management	Governance	Counter Partner					

アカウンタビリティの事例研究

M 国の B 島で活動する日本の NGO「WX」は、少数民族 P 族のある集落を代表する A 氏から、「エイズ特効薬」と目される植物を村の共有林に植林したいので、ついては拠点施設となる建物が必要となるので、この点で協力が欲しいというリクエストを受けた。そこで、NGO「WX」は、この植物の植林および栽培が村の経済的自立を確立する重要ポイントにあたると判断し、リクエストに応えることにした。

差し当たり、NGO「WX」は、自己資金 1000 万円を工面することにした。NGO「WX」は現地に入り、実際の植林と建物の建設作業を確認した。

その後、1 ヶ月がたち、再び A 氏から NGO「WX」へ協力要請があった。それによると、建物の建設費用が意外にかかり、1000 万円では整地と基礎工事しかできなかったという。それで、しかるべき建物をつくるには、あと 1000 万円が必要だという。NGO「WX」は、これを承諾し、いつも支援して戴いている企業などのドナーから 1000 万円の寄付を得ることができたので、この 1000 万円を追加して A 氏へ渡した。

今度は、2 ヶ月がたち、三度、A 氏から NGO「WX」へ協力要請があった。建物は大方完成しているが、屋根の工事と内装の費用として、あと 1000 万円が必要だという。NGO「WX」は、再び、現地に入り確認したところ、このまま建設を中断しても意味がないので、A 氏の要請を承諾した。

しかし、NGO「WX」は、再度、支援して戴いている企業などのドナーから寄付を得ようとしたが、なかなか集まらない。

この場合、計画それ自体やマネジメント、さらにはガバナンスにも問題があるように思える。まず、この点について明らかにしよう。

また、それにしても、再度、寄付を得るために、NGO「WX」はドナーにたいして、どのようなアカウンタビリティを行えばよいだろうか？



関西で国際協力に関わる学生の場所作り

ICC関西(International Cooperation Consortium)

Point① 団体同士のコラボレーション企画をしたい！！



☆ 学生NGOの代表格さんのディスカッション

「将来の団体コラボレーションを探れ」

さあ、その後の結果は、
いかに！？

Point② 団体に、運営スキル持って帰りましょう！！



☆ 問題解決 シュミレーションワークショップ

・3種類のレベル別シュミレーションをご用意

「なんでみんな笑っているの！？」

Point ③ 団体として、個人として、繋がりたい！！



☆ フリー情報共有、交流会

・「名刺は必ずご持参ください」

「ここからうまれる何かとは！？」

「VOL. 1は6ヶ月。VOL. 2は2ヶ月半。」

☆ 大学ボランティアセンターの事業としてもらい、

講師の謝金、会場施設費、印刷経費をゼロに！！

大学の枠を越えて、国際協力の学生ネットワークに

共感する若者同士の有志チーム、約10名で企画、

運営、司会まで実践！！



☆運営スタッフと参加者のみなさんで、記念写真☆

(特活)関西NGO協議会、NGO相談員制度、など

を利用させていただき質高い講師確保、講師料

の削減に成功！ありがとうございました☆

2007年4月21日(土) VOL. 1 参加総数:70名



- ・ 参加団体同士での合同勉強会

- ・ 参加者MLを作成

参加者同士の、イベント情報の共有に！

- ・ ただし、数値だかの、評価は難しい面も

団体プレゼンテーション風景

しかし、「悩みの共有ができた。」「え！？、案外悩んでいたことって同じじゃん」

「同じ分野(FT, 開発教育、交流など)の団体を知ることができた！！」

「頑張ってくださいね、とは言われるけど、みんなで頑張りましょうね、って言われたの初めてです」などの、ご意見を多数いただきました。

2007年7月7日(土) VOL. 2 参加総数:66名 (東京や名古屋からも参加者が！)



- ・ Vol.2 では、VOL1 参加者の方が運営スタッフに参加☆

- ・ 3種類のワークショップを全員に体験していただきました。

参加者が全体の40%以上の人と話せる仕組みを作りました。

- ・ 交流会も前回より、「個人」としてではなく「団体」を背負っているというイメージで、交流していただきました。

現在の状況から私達の活動から、アウトカムを書き出すのは難しいです……。

今後も、若者同士の問題共有を通し

国際協力に関わる若者の場所作りを「継続」していきます！！

- ・ 現在、VOL. 1, VOL. 2, を踏まえ、参加団体同士とのコラボレーションの話し合いが進んでいます！！



私達の知らないところで、団体さん同士が繋がってもらうことがベストと考えています。

問題点を出し合うワークショップ

今後、期待できる「繋がる」企画内容は……

- ・ 合同の新入生説明会☆(4月～5月ごろ)
- ・ 合同の活動報告会☆(11月ごろ)
- ・ 合同、スキルアップ勉強会☆(通年で可能)

→HP作成講座、カッコいい広報誌作成講座、代表格さん同士の「つぶやき会」！？

可能性は無限大です！！

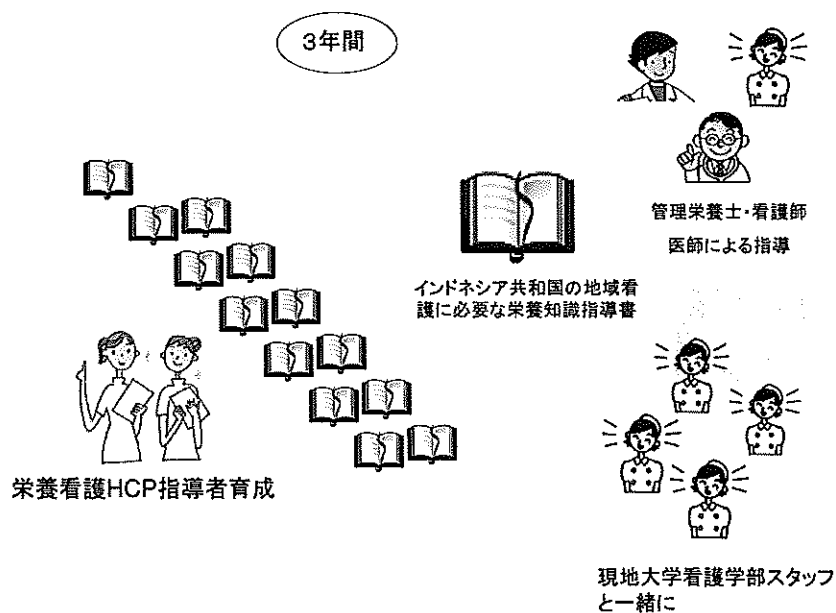
インドネシア共和国における 栄養看護師育成プロジェクト



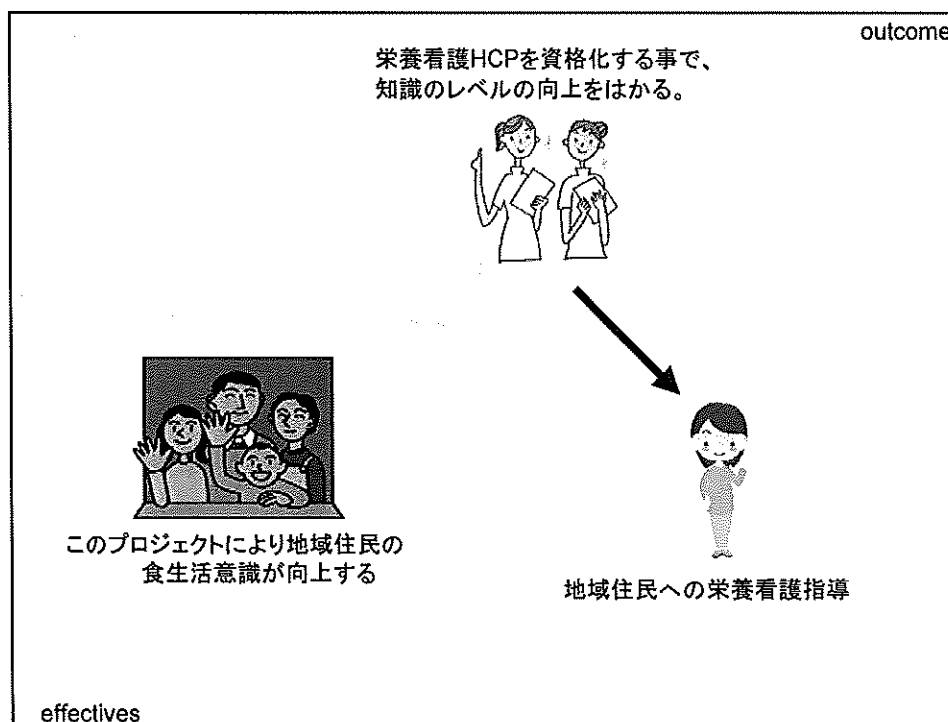
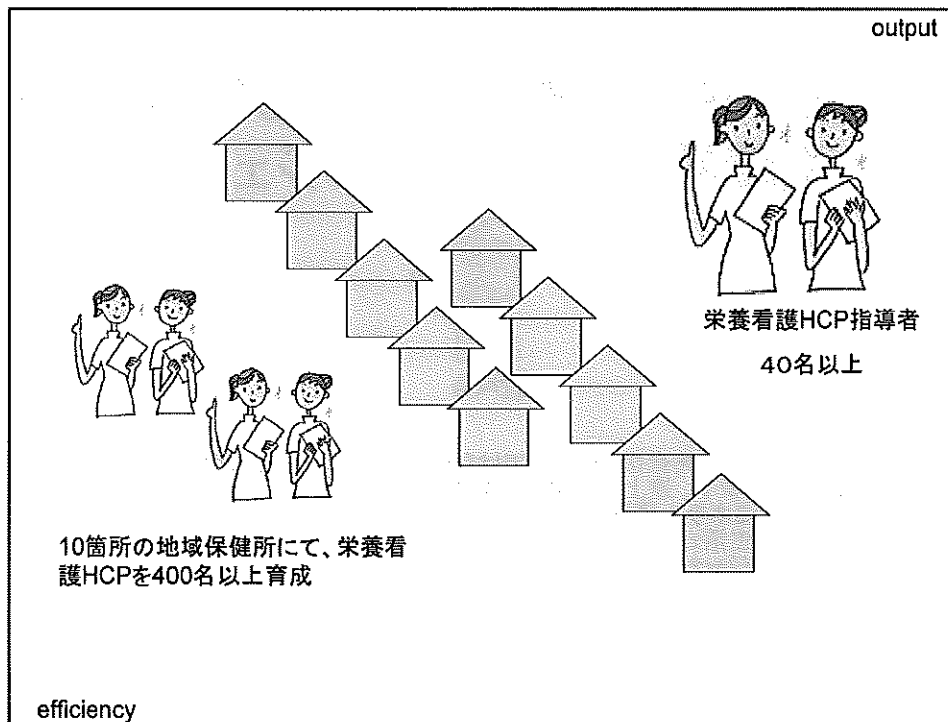
糖尿病は最早『先進国の病気』ではなく、途上国での増加が国際的に問題になっています。途上国での糖尿病の大きな原因は、脂肪や脂肪類の増加ビタミンミネラル摂取の減少による肥満、またタンパク質摂取不足の低栄養等食生活が大きく関与しています。本プロジェクトはインドネシア共和国、ジョグジャカルタ特別州において最も地域保健所で活動する『カデル』と呼ばれる看護助手に基本的栄養学的知識を提供し、地域住民の健康増進を図るプロジェクトです

relevance

input



economy

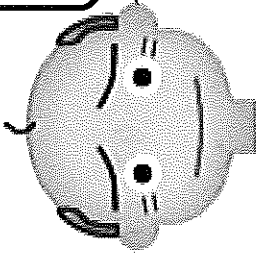
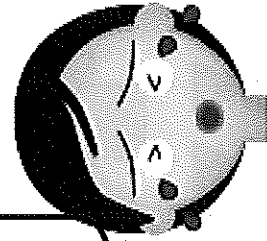


アフリカ、マラウイに トイレを設置しよう！

アフリカ、マラウイ シンコタコタ県 ムマザワ地区では、
トイレがほとんどなく、し尿が適切に処理されていない

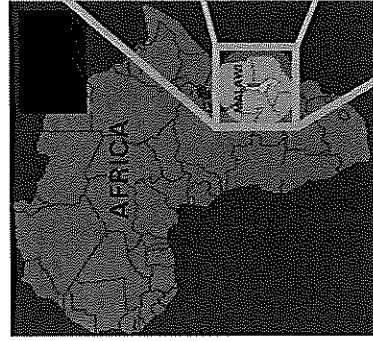
おなが
いたいよ～

トイレって
なんじゃ？

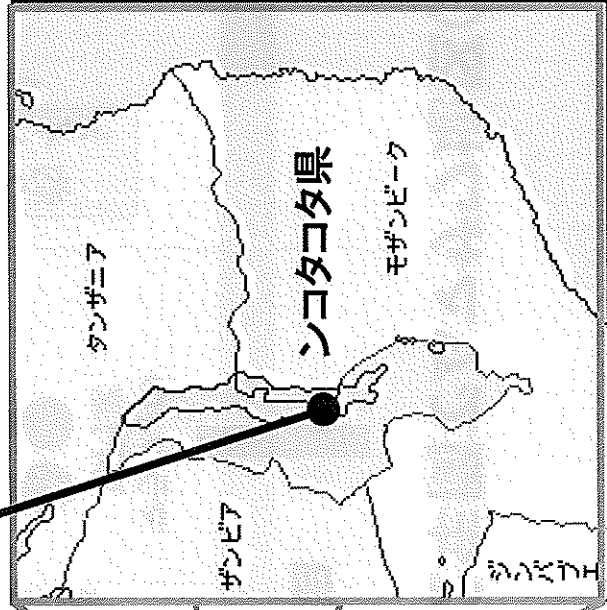


こども

村 長



アフリカ
マラウイ



そこで...

エコサントイレの設置により、
衛生環境の改善を図ります！



し(大便)と尿を分離！

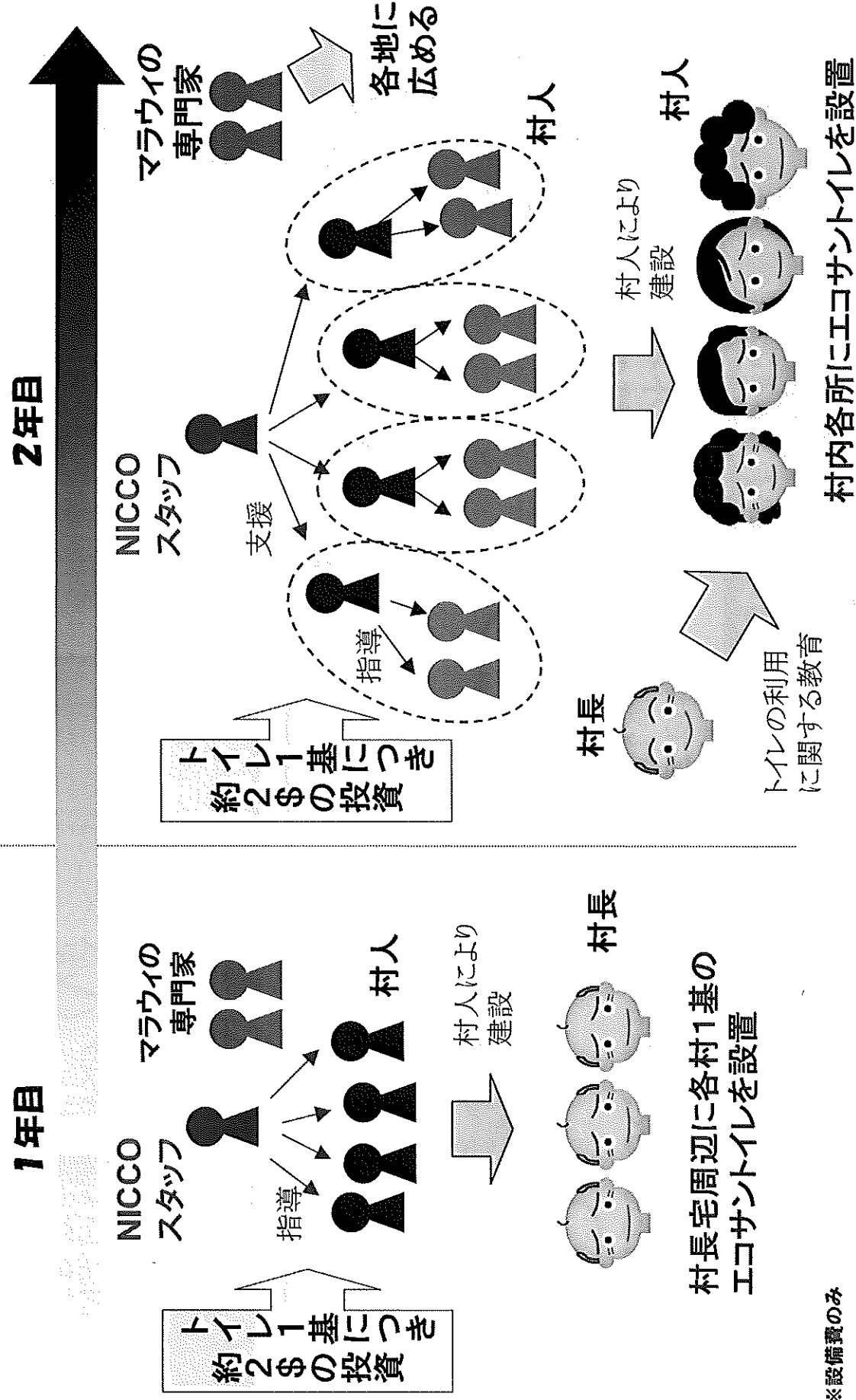


尿：希釈
⇒ 液肥利用

大便：衛生化
⇒ 堆肥利用

- 病原体を含む便の衛生化
- し尿を農業利用
- インフラ整備不要
- 安価で容易に建設可能

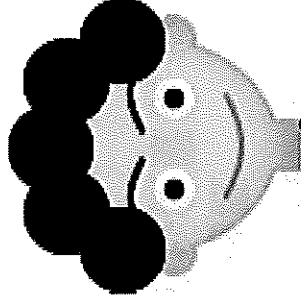
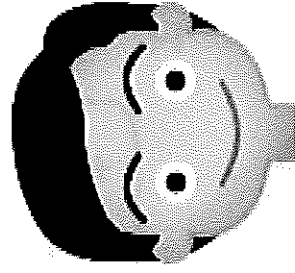
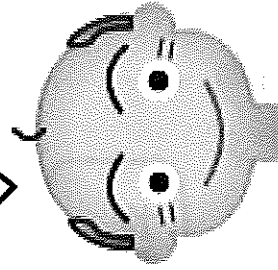
約200\$※、2年間でムマザワ地区(23か村、900世帯)にトイレを!



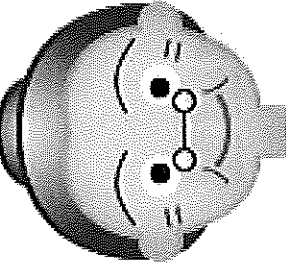
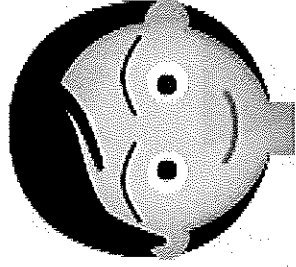
2年間で、90基のエコサントイレを設置！！

→ 平均10世帯(50人)につき、1基

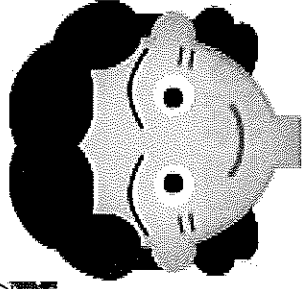
みんなで共有して使うんじゃ



エコサントイレ完成！

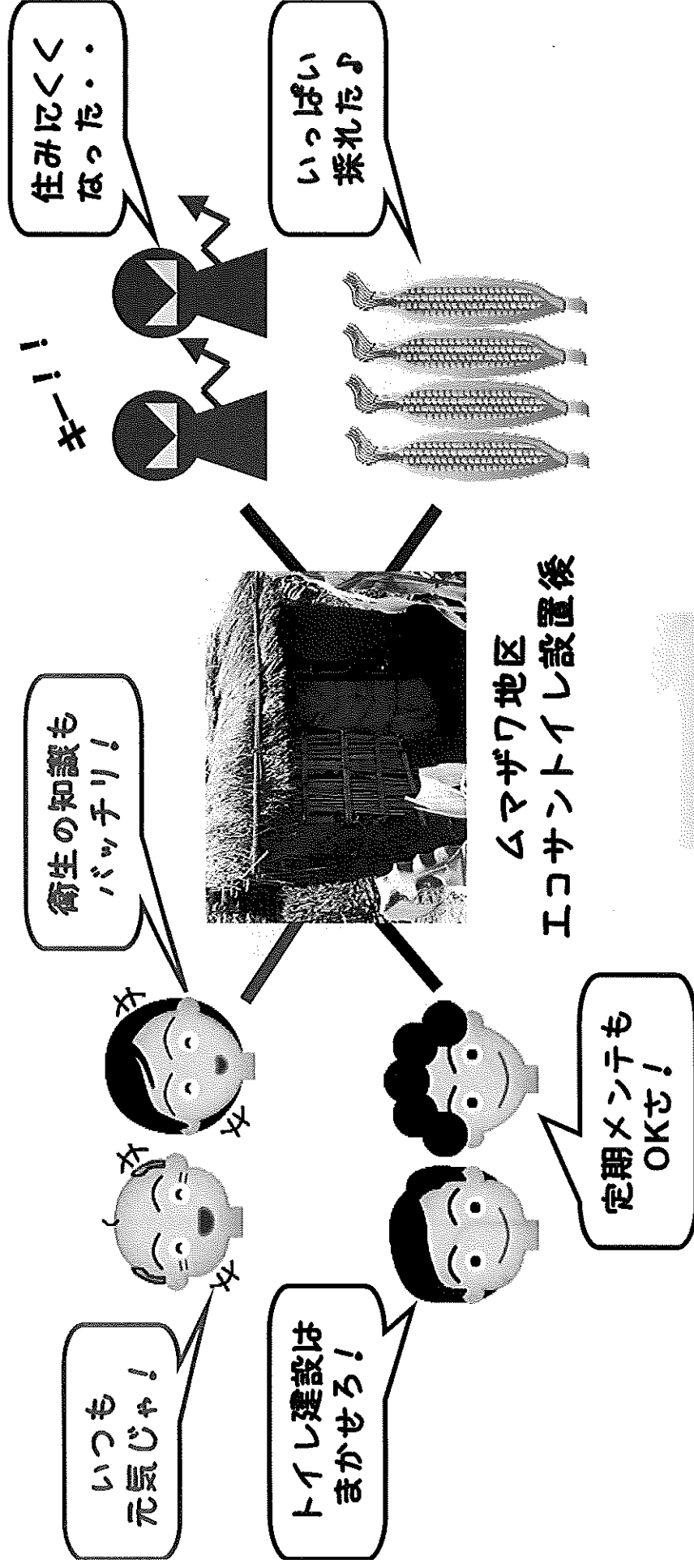


ムマザワ地区
900世帯
約4,500人



メンテナンス
もしっかりね

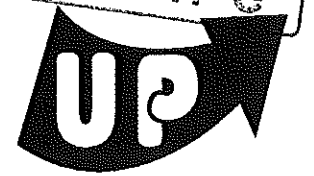
衛生改善！ 健康増進！ 人材育成！ 農産物の生産性向上！



さらに・・・

- マラウイ全土に広める下地ができる
- アフリカ全体に広めるためのモデルを構築することができる

当日配布資料
名古屋



本日はお忙しい中、「NGO のアカウンタビリティ強化セミナーin なごや」

「信頼される NGO」へ、ステップ・アップ

へ、お越しくださり、どうもありがとうございます。

信頼され、応援される NGO になりたい。NGO 関係者なら誰もが抱く課題です。本セミナーでは、経験豊富な講師陣の事例を地域の NGO 関係者の皆さんと共に考え、今日から使える「アカウンタビリティのコツ」を身につけましょう。そして、「信頼される NGO」へステップ・アップしましょう！

日 時： 2007 年 7 月 28 日（土）13 時 30 分～17 時 30 分

会 場： COMBi 本陣 N 棟 106 共同会議室

主 催： 外務省

運 営： （特活）国際協力 NGO センター（JANIC）

運営協力：（特活）関西 NGO 協議会、（特活）名古屋 NGO センター

◆プログラム◆

13:30	○ コーディネーターあいさつ ○ 参加者自己紹介	小池康弘（【特活】名古屋 NGO センター事務局長）
13:45	第1部 実践から NGO のアカウンタビリティを考える ○ ワークショップを行い、参加団体自身のアカウンタビリティのあり方について、みんなで考えます。 ○ リソース・パーソンから、団体自身のアカウンタビリティのツールを紹介していただき、「今すぐ使える」アカウンタビリティのスキルをみんなで身に付けます。	ファシリテーター：壽賀一仁さん（日本国際ボランティアセンター（JVC）事務局次長） リソース・パーソン：林かぐみさん（財団法人アジア保健研修財団事務局長）、井川定一さん（【特活】アジア日本相互交流センター（ICAN））
15:45～16:00 休憩		
16:00	第2部 中部地域の NGO を取り巻くステークホルダーとアカウンタビリティ ○ 地域の NGO に求められるアカウンタビリティのあり方について、お話をいただきます。	進行：栗木梨衣さん（財団法人愛知県国際交流協会）
16:40	第3部 NGO 活動におけるアカウンタビリティとは？ ○ アカウンタビリティの表出と信用・信頼の構築についてお話をさせていただきます。	進行：壽賀一仁さん（日本国際ボランティアセンター（JVC）事務局次長）
17:20	振り返りとまとめ	小池康弘
17:30	終了（名古屋駅付近のお店にて、交流会を行います）	

◆お願い◆

アンケートのご記入にご協力ください。セミナー終了後、回収させていただきます。

また、交流会のご出欠確認にご協力いただけますと幸いです。

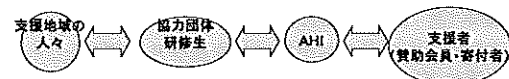
本日は、どうもありがとうございました。

AHIの経験から アカウンタビリティを考える

2007年7月28日

林かぐみ

誰に対するアカウンタビリティか



1990年代前半～半ばに言われたこと

- A. 支援者から
会報編集委員会に集まった人々から
出されたこと
「会計報告は？」
- B. 海外のカウンターパートから
「自分のところへ配分されている予算は
わかるが、他へは？全体はいくらが何
に使われているのか？」

それがなぜ「痛かった」のか？

「自立のための分かち合い」
を掲げているのに、それを実践していない！



- * 1995年に初めて
全賛助会員・寄付者へ決算報告を送付
- * 同じ頃
英文の年次報告書・決算書も作成し、送付す
るようになった。

支援者から(1) 「会計報告は？」 からさらに

- ★組織の運営について
「会員が参加する場がない」
→意思決定は、理事会なのに形骸化。
一体どこが決めているのか？
→参加して考えるには、情報が必要。

支援者から(2) 「会計報告は？」 からさらに

- ★研修の成果は？
いつも報告されるのは、研修のねらいや実施した
内容ばかり。
→「それでどうだったのか」を知りたい。
＝帰国後の研修生のこと
さらに、それで、地域住民や彼らの生活がどう変
わったのか を知りたいんだ。

海外で

たとえば、

* 98年11月 ネパール出張

「写真を撮らせてください」

* 99年1月 あるNGOの声

「お客さんを自分たちが育てた住民グループのところへ連れていった。ところが、彼らは事前連絡なかったし忙しいと案内するのを断った。それに対してNGOの職員は怒った」

→住民グループをどうみているかが現れている。

最近の経験から考えたこと(1) フィリピンでの支援事業を伝える

• 2007年3月 フィリピンに出張

ニューコレリアという町で、NGO(AHIの協力団体)と、地元の行政と、住民組織が協力して、「参加型」開発をおこなっている。

AHIは、それを1999年から支援。

2010年で支援を終了する見込み。

現時点でどうなのか。

最近の経験から考えたこと(2) フィリピンでの支援事業とは



最近の経験から考えたこと(3) フィリピンでの経験 1 ニューコレリアのキーアクター



最近の経験から考えたこと(5) ボランティアの問いかけ

ボ: 何をしたかの報告ではなく、感じたことを!

↓

私: そうか。私の感じたことか。。。

私個人が悩んだり、喜んだりしたこと。

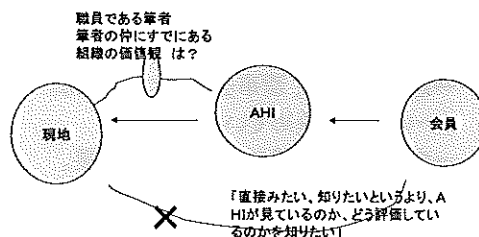
↓

ボ: 「そうじゃなくてえ〜」

「〜 会員はAHI援助しているので、AHIがそれをどう判断したかを聞きたい」

最近の経験から考えたこと(6) ボランティアの人からの問いかけ

• 本当に求められたものは:



まとめ

* 広報とアカウンタビリティ

NGOにおけるアカウンタビリティ

とは、「何を伝えるのか」という課題に関係

投入によって何を起こそうとしているのか、それによって何がおこっているのかを共有すること。

＝それは目に見えるものではなく、、、何？

「価値観」？

人材育成 ……〇〇をする人を作るのではなく、自分自身で必要なことを見極め動く人を生み出していくのに寄与したい。

**AHIは、人づくりを通して
アジアの草の根の人たちの健康をめざしています**

1. 概要

名称 財団法人アジア保健研修財団 アジア保健研修所
英語名 Asian Health Institute. 略称 AHI

所在地・連絡先 〒470-0111 日進市米野木町南山 987-30 電話 (0561) 73-1950 FAX (0561) 73-1990
電子メール ahi@jca.apc.org http://www.jca.apc.org/ahi/

代表 理事長 川原啓美 (かわはらひろみ) 事務局長 林かぐみ (はやしかぐみ)

主たる事業 国内外での研修事業 (地域保健・開発ワーカーの育成)

活動対象地域 東南アジア、南アジア全般 **設立年月** 1980年12月

組織形態・運営体制 財団法人 (主務官庁: 愛知県健康福祉部)
理事: 16名 評議員: 19名 監事: 2名 事務局職員: 常勤8名 非常勤2名
特定公益増進法人取得

2. 設立趣旨

1976年にネパールで医療協力に従事した川原啓美が、医療機関にかかることができる人々はごく一部に限られており、大多数の貧しい人々の健康を守るためには、地域で住民に指導したり、相談にのって生活改善、健康づくりに取り組む保健・開発ワーカーの働きが不可欠であると実感した。また外国人として支援の継続性を鑑みても、ワーカーの育成という間接的な援助形態がふさわしいと考えるに至った。

川原自身がネパールで貧しさの中にも豊かな文化、精神性を持つ人たちと出会い、継続的に関わりたいと願ったことから、アジアの草の根の人たちによる自立への努力を日本の市民が支援することを基本に置き、「自立のための分かち合い」「人びとから人びとへ」をモットーとして掲げた。

3. 事業内容・実績

●研修事業 アジア各国のNGO関係者対象 (近年は行政職員、住民組織の代表も)

国内で

- * 国際研修 AHI会館にアジア7~8ヶ国から研修生を招き年に一度開催。リーダーシップ養成をねらいとして参加型で行う。地域で住民主体活動が生み出されるよう、外部者としての働きかけを論じる。
- * 東洋医学研修 安価で痛みの軽減に有効であり、容易に技術が習得できる「皮内鍼」の習得を目的とする。
- * JICA (国際協力機構) 委託による研修 フィリピン、ミンダナオ・ムスリム自治区の保健行政職員対象

国外で

- * 提携団体、元研修生の所属団体とのパートナーシップで行う研修
- * 元研修生間のネットワーク形成、研修後のフォローアップ * 南一南間の経験交流に基づく研修会

●国内事業 アジアの草の根の状況、国際協力活動への理解推進

- * 印刷物の発行
- * 講演会、学習会、イベント、元研修生を訪ねるスタディツアー等の開催

4. 財政 2006年度実績

予算規模 (実施的な収入) 約 8000 万円

うち、基本財産運用収入 約 11% 一般からの年会費・寄付 約 70%

JICA委託事業費 約 13%

AHIでは発足後数年間を除いては会報誌上で会計報告が掲載されてきませんでした。またそれを含めて一年間のすべての事業について書かれた年次報告書についても、経費が大きな要因となって支援して下さる方々全員に送付するということもなされてきませんでした。このたび、会計報告させていただきます。にあたって、まず以下のことをお伝えしたいと思います。

AHI発足に際して

アジア保健研修所(AHI)は今から20年ほど前に私がネパールで三ヶ月間、医療協力をした際に、ネパールの人たちと触れ合い「この人たちと共に」という願いを持ったことから始まりました。この願いを夢に終わらせず現実のものにするには、つまりAHIをつくるには、一人の力では到底おおよばず、多くの人たちの協力が必要でした。まずは私自身と家族の資産、次にごく近い友人たちがお金を出してくれ、資金づくりが始まりました。さらに、より多くの一般の方々からの協力を得るために、また将来にわたる継続的な働きとするために、財団法人化をめざしました。そして、その許可を得たのが15年前です。

財政を分かちあう

昨年会報編集委員会が発足してさそくに指摘されたのが、会計報告が賛助会員に対してされていないということでした。現在支援して下さっている会員に、今の財政状況を報告し、今後への課題を伝え、そこから更なる支援を求めることが基本であるはずのことです。それは「自立のための分かちあい」をモットーとするAHIにとって、「本当にAHIのすべてを、支えて下さる方々と分かちあおうとするのか？」というたいへん根源的な問いかけでもありました。すべての賛助会員に報告するという基本的な責任を十分に果たし得なかったことは、「アジアの草の根の人たちの健康を願って」AHIの活動に加わりうとして下さった方たちに対して、かかわっていたただくための門戸を充分には開いていないことであると気づかされ、今回のご報告となりました。

会計報告を見ていただくにあたって

ここでは、AHIの理念に基づく二つの特徴に触れたいと思います。
そのひとつは、AHIは「人づくり」に携

わっているということです。人づくりのためには、何よりもまずそれをおこなう人が必要です。AHIの協力活動は金品の提供や人の派遣ではありませんし、アジアの国のどこか特定の地域で活動を展開しているわけでもありません。また、特に近年アジアや国際協力という分野への関心が高まるにつれて、AHIが設立当初からおこなっていた日本国内での「アジア理解活動」への要望が高まり、AHI内外での啓発・教育活動の比重が高まってきました。

もうひとつは、AHIは「人びとから人びとへ」のモットーのもと、アジアの草の根の人たちの健康を願う人を一人でも多く得て、その人たちの財政支援によって支えられたいと考えています。このあり方から公的資金やある特定の大口寄付に頼らないという姿勢を貫いてきました。公的資金に関しては、賛助会員の方々の中に積極的に活用すべきだというご意見もあり、今後も継続した議論が必要ですが、より多くの市民の支援を求めていくという姿勢は更に強めていきたいと考えています。

WEL-COME
Satan and
his
pope
to
Nepal
1988

உறு (று)

ホテルに着き、何人もの元研修生が訪ねてくれて話はずむ。

260 (四)

今日は何ヶ所か回つて挨拶と情
報収集。

まず最初は、ワールドネイバー
（「世界の隣人」の意）という国際
NGOの事務所を訪ね、ネパールの
NGO状況に詳しいトム・アレ
ンさんに話を聞いた。（西ページ
参照）

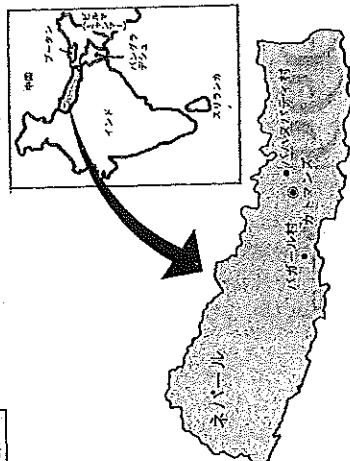
彼の話から、仕組みとしてはまだ整っていないが、王政一黨体制だった九〇年以前と比べると今はずっと元氣にかつ難多にエネルギーが放出されているのだろうと想像した。このエネルギーを

後から感づるにふふなりた)

次は、社会福祉協議会（SWU）訪問。現在の活動状況を聞いた。

● AHIとネパール
AHIは1984年から91年まで、社会福祉省下の全国社会サービスディレクション協議会（SSNCC）と協力して、地元NGOのワーカーを対象に研修活動を行っていた。特に、90年頃から起こってきた民主化の動きのため、協力団体が組織の改竄がせまられるなど不確定な状況になったため、当面ネパールでの研修開催を保留することとした。これ以前、以前の研修参加者を中心とした動きはあったものの、AHIとしての協力活動は、休止したまま、今に至っている。

SSNCCは、92年に解体され、あらたに社会福祉協議会（SWC）が足した。



澤田一は、木の皮に書かれたものの、インドラダさん（98年国際研修参加）からプレゼントされました。

17日(火)

一日雨がそほ降る。
元研修参加者を訪ねる。

18日(水) ~ 19日(木)

今日も相変わらず曇り空。
今日からは佐藤、宇井各々わか
れて、一泊で現場訪問。

ぼくは、ゴバルさん（八四年
国際研修参加）が長年活動してい
る地域（カトマンズから東に二時
間のところ）を訪問。

古郡バクタールを過ぎ、刈り
 入れの終わった段々畑の横を過ぎ、
 国道は登りとなる。そして、国道
 を離れ、カトマンズ盆地の縁の向
 こう、溪谷へ降りる道は舗装が終
 わり、がたがた道となった。こう
 して、直前に、バハヌバデル村に着
 いた。(地図参照)

ゴパールさんは、ネパール家族

計画協会の職員。この村は、今や一〇近い村々に展開している活動が、二〇年前に始まった最初の場所だとか。この活動には、ぼくが一六日に訪問したワールドネイバーが家族計画協会を通して、長年資金を提供していた。

活動の中味を聞くと、一九七〇年代は避妊用具を配っていたが、八〇年代にはいって、農業などの

村おこし事業を村民と協力して行
うという方向が加わったという。

そして八年ほど前に、八つの活
動地域で、住民組織（ネパールでは
これもNGOという）ができ、
それぞれに運営するようになった。
その一つがネパハヌパティ
県連合サービス委員会である。

この変化にもなつて、コバー
ルさんの役割も変わり、当初は実
際に活動を実施する立場だった
が、今はその八つのNGOに助言
したり、連絡会議やそのスタッフ
の研修などをする事が主な仕
事。

そでこの保健サーとス委員会の
役員さんたちと話した。

(ちなみに「カーン」もスウェーデン語は「カ」もスウェーデン語と同じ!)

「委員会」では、診療所を運営しながら、近くの村の特に女性たちがグループを作るのを手伝っている。

現在一〇の女性グループに対して、彼女らが小規模な植林、畜産、飲料水確保などの事業をするのを、部分的な財政援助やグループの育成を通して支援している。支給職員は八名とのことだった。

「ふりやせ、りの委員会の資金
はふりやせのりだすか？」

「始めは殆ど全額、資金をもらっていたが、今は六五％は自前で調達しています」

「(K5%- (61) 3-) 200
013000000000」

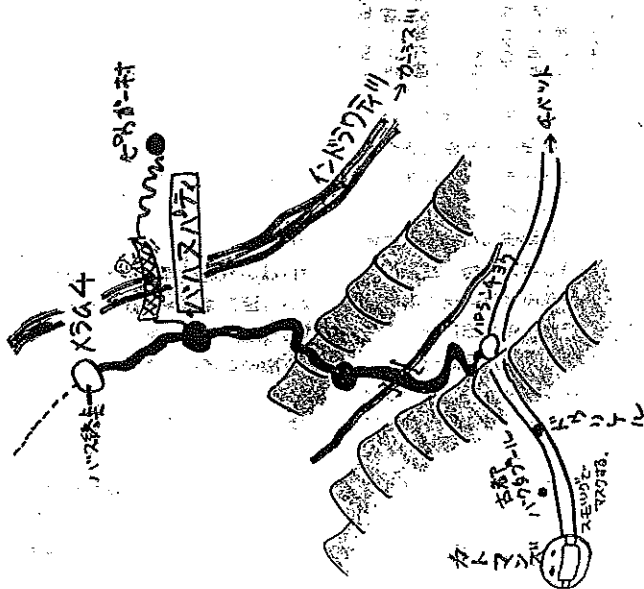
「この診療所では患者さんから診察代・薬代をもらっていません。といっても薬局で薬を買ったり医者に行くよりずっと安くすみませう」

「なるほど」

話す言葉の端々に自分の村で、この委員会が独立独歩の方向を歩んでいるという自信が感じられた。

こうして、かつての上司であり、意見相的な存在でもあるゴバールさんも加わって、たくさんの説明をしてもらった。こちらでも聞くだけのことは聞かねばという熱心まで聞いた。一つも聞き漏らすまいとノートをとりながら。

はっと気付くと、こちらの自己紹介もしないままに話を進めてしまっていた。自分がどういう人間でなぜここに居るのか、なぜ昔の話を聞きたがっているのかを言わないで、一方的に質問を浴びせかけていた。



数秒だったか気まずさを感じた。あと、あわてて自己紹介をした。相手はそれを気にする風はまったくなかったが、いかにも外部者による質問攻めだったと反省した。

この後で別のNGOを訪問した。時も、きれいに印刷された財政報告書を見せてもらった。それを見ながら、どうやって職員を養成しているのだろうかという疑問が頭に浮かぶ。あるいは、人権に関する資料がさつと出された。まるでこちらの思いを見透かされたかのようだった。

「あなたたちはすぐ入ってくる。資金が誰かの私腹を肥やしてはいないか見たがる。基本的に私たちは

を信用していないのでしょ」とも言われている気がした。

そのあと、バハスバタイ村のすぐ隣を流れるインドラワティ川（これはガンジス川に通じている）にかかる長い吊り橋をわたって、その女性グループのひとつがある、ビウガール地区（地図参照）へ向かった。川に沿いながらも、山道を登ったり下りたりを繰り返すこと約一時間。五、六軒の農家が軒を連ねる農家で三年前にできた女性グループの二一人と話した。月々一〇〇ルピー（一ルピー約二円）ずつ集め、基金が今四九〇〇ルピーになったとか。元気な女性たちだ

った。同行したバハスバタイ保健サートン委員会のシヤンブー事務長さんが、「グループを作る前と後ではどんなことが変わりましたか？」と皆に聞いた。

簡易水道を引いて乾期に水の心配をしなくてすむようになり、汲みに行っていた時間を他の用事に向けられる、水牛を買って育てて乳をしぼったり、売って収入が増えた、とか口々に返事をしてくれた。

最後に、写真を撮りたいとお願いをした。シヤンブーさんが女性たちに話して、オキーケーということになった。集合写真を撮るときのことにもあるのがしよのなか、と

なかのリーダー格におぼしき女性シヤンブーさんにバハスバタイ語で何か言っている。

「何と言っているのですか？」

「こうやっていつも人が来て、写真をとっていくけれど、一度も自分たちに撮った写真を送ってくれたことはない、と言っているのです」

（ガーン。絶句。参ったな）

「いや、そんなことはないです。必ず送ります」

「そうは言っても、でも一度ももらったことはないんだから」

「ばくは送ります。必ずきつと送ります。この写真は何かいりますか」

■ネパールの社会背景とNGOについて

ネパールでは、1962年に制定された憲法の下で、政治活動が禁止され、国王を頂点として、国、県、郡、村の各レベルでのパランチャヤットと呼ばれる評議機関を通して、全国が統治されてきた。

このような強固な王権に対して、民主化を求める動きが90年初頭から激しくなった。そして、92年5月に総選挙が行われた。そうして誕生した政権は開発計画に国民の参加を促すことを打ち出し、NGOを政府のパートナーとして位置づけた。そして、村落開発委員会に補助金が出されるようになった。そこからNGOは資金を得られるようになった。こうして、NGOの数は急激に増えた。その数は現在2万ともいわれている。

92年に発足した社会福祉協議会（2ページ参照）は社会福祉省に属し、その主な役割はNGO活動を統括することである。現地のNGOが国際NGOから支援を受ける場合は、ここへの登録が必要とされる。しかし、管轄省庁はこの協議会に一本化されておらず、現在ここに登録されている団体は約5千。以上を背景として、ネパールでは、全国規模の大きな団体から、村の青年団・住民グループまでを含んだNGOと呼ばれており、規模や運営能力などに大きな開きがあると言える。また、多くのそれが、単に助成金の受け皿として登録しているだけだ、という人もいいる。

ワールドネパールを含め、国際NGOは、徐々に後方支援に移っている。彼らは、1970～80年代は、資金を持って現地に直接入り込んでプロジェクトを実施していた。

1990年を境に、段々と現地に在地NGOに実際の計画の実施を任せていくようになり、さらに地元NGOが独立して運営する形へ移行するよう進んでいる。（その裏に地元の活性化が進んできたこと、資金提供側も以前ほど出せなくなってきたことという事情もある）

しかし、大きな団体であつてもこれまで外からの資金に頼ってきた団体は、その規模ゆえに自己資金での運営に際していくのが難しいところもある。かえって地域レベルで始まった住民グループの方が、最初から自分たちで運営できる道を探してきたので、経済的自立が容易と言えるかもしれない。

「全部で六枚」

彼女にしてみれば、だいたい不満に思っていることがポロリと出ただけかもしれない。しかし、はくにとつてショックだったのは、いかにも相手を尊重しているような言動でいて、じつは被害者としてしか見ていなかった自分自身だった。

たしかに、この手の短期の見学は、建物、人、活動の様子などを

写真にとるなどてつと早く記録する形になってしまうことが多いし、仕方ない部分もある。また、ここはモデル地区のようなので、これまでたくさんの方がやつてきて写真を撮っていたのだらう。

それでもやつぱり、撮られる側もあなたと対等な人間なんだと言われたようだった。

20日(金)

元研修生が中心となった団体（ADAG）訪問。

ネパールのNGOは活発になってきているが、まだまだ未熟な点が多い。そんな中で、自分たちが積んできた経験を研修という形で伝えることを通じて、小さな団体を支援することが重要だと、彼らは考えている。現にすでに二回研修を行い、その受講者自身が自分の地域で学んだことを伝える講習会も開かれている。

今日の会合で、彼らは「我々はACHANの支部でもないし、AHIの支部になるつもりもない。必要な資金を依頼することはあるが自分たちの本当に必要なと感じることをやっていきたい」と言った。

ADAGのメンバーは、各人の団体に所属しながら、個人としてADAGの活動に関わっている。このことから組織として弱い面が出てくることも想像でき、また今後は組織としてどのような形になるか未知数でもある。

■ADAGと今回の出張

ADAGとは、Alternative Development Action Group（新しい開発のための行動グループの意）の略。ACHAN（地域保健活動家連結網）の設立。これはACHANの研修に参加した人たちが、その後支援しようという方針によるものだった。しかしそれが昨年あたりから転換され、ACHANからの支援がとれなくなると、ACHANの中心メンバーの多くが以前AHIの研修を受けた人たちが中心で、AHIに対して支援が期待されていた。今後のAHIの方針を検討するために、ADAGの活動を把握することが、出張目的の一つだった。

21日(土)

今日は朝からいい天気。今回の出張の中心目的の一つであるAHI園

際研修参加者の同窓生会合の日。

ネパールには全部で四〇名を越す同窓生がいる。今回そのうち、一八名がカトマンズ市内のホテルに集まった。

一番古くは、まだAHIの建物がない頃、一九七九年に来日したランジットさん。勤め先を今年定年で辞め、今は自分でNGOを始めたという。一番新しいのは去年の参加者のシヤムさん。彼女はついこの前の「アジアの子ども」ネパール号の記事の情報を送ってくれた人だ。

みなAHIとのつながりはあるがお互い初対面の人が多い。始まる直前にはあちこちで自己紹介が繰り返られていた。

僕の挨拶に続いて、皆で今日一日でどう進めるかを考えた。そして、ネパールの現状分析をまず行い、そのあとAHIへのコメント、助言を出しあおうということになった。

分析のために大きく、保健、教育、地域開発という三つのグループに分かれた。昼食までの二時間、各々のグループが熱心に話し合っていた。



11月21日みんな集まって

フィリピン ニューコレリア町 SIAD の確かな人たち



SIADとは?
Sustainable Integrated Area Development
持続的総合地域開発

行政、住民組織とNGOが連携して
進めていくまちづくりの方法

率直な声を聞かせてください!

3月7日～9日AHIが支援するまちづくり事業(SIAD)の評価会に参加しました。
この会合は、IPHICと地元の関係者が毎年開催しています。17の村から村長と村の議員、住民組織代表などが出席しました。各村で実施した事業の報告や課題が次々に発表され、まちづくりが進展していることがわかりました。

しかし私は、地元の人たちが実際どう感じながらまちづくりに関わっているかを確認したいと思い、会合の合い間に集まってもらいました。

事務局長 林かぐみ

関わっている人たちの気持ちが知りたくて

AHIがニューコレリア町でのまちづくり事業を支援し始めたのは、1999年。20村からなる町が参加し、IPHICとAHIが協力することを約束しました。当初は、町の職員や議員から何か物を提供するように要求されたり、現状を変えることへの抵抗もありました。

2005年の協力関係の更新の際には、町議会の反対で、町全体としてのSIADへの参加は中止され、16の村が活動を継続することになりました。このよ

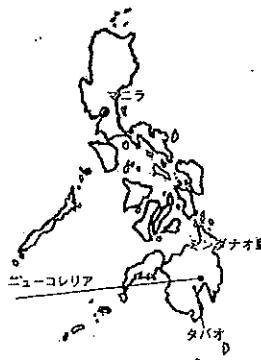
うに大きな壁にぶつかりましたが、一方で、継続すると決めた村長同士の結束は強くなりました。彼らがSIADを中止した一人の村長を説得し、翌年その村は活動を再開することになりました。現在は17の村がSIADに参加しています。

しかし、住民が参加して物事を決めていくには忍耐も時間もいります。また住民参加によって行政が活性化されても、所得向上や生活環境改善などは、すぐに目に見える変化に結びつくものでもありません。

その地域の人たち自身が、意義ややりがいを感じ

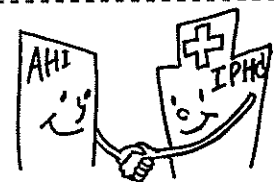
ニューコレリア町

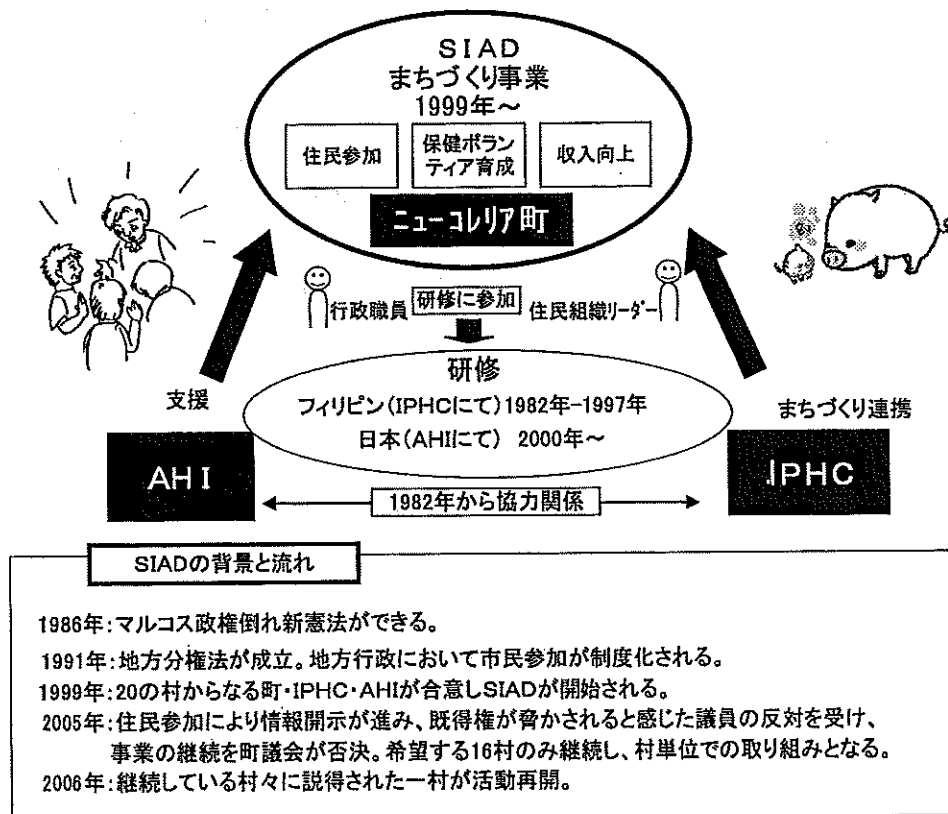
面積約320km²。人口約5万人。
20村から成る。町も村も首長の任期は3年、最長3期まで。
主な産物は、米、ココナツなど農業中心。



IPHIC

Institute of Primary Health Care
(ダバオ医科大学付属プライマリヘルスケア研修所)
フィリピン、ダバオ市にあるNGO。
AHIは1982年より、協力関係を結んでいる。





るものであってこそ、SIADの取り組みが継続し、地域に根づいていくと言えるでしょう。

AHIは、2010年まで支援を続ける予定です。「地元の人は手ごたえを感じているのか。彼らはこれからは頑張っていこうと思っているのか」という点について、最終段階に入る今「とにかくにも、地元の人たちに正直なところを聞かせてもらおう」と現地向かいました。

みなさんの思っていることを聞かせてください

「今までSIADに取り組んできてどう思っていますか？ 満足のいくものになっているのでしょうか。今の達成度は、10点満点とすると、何点をつけますか？」という私の質問を受けて、一人ずつ話してくれました。

ナンシーさん

Q: 住民がいろんな会合に出て発言するようになったことで、住民の健康に影響がありましたか？



ニューコレリア町保健課長・医師
(1996年AHI国際研修参加)

A: 大いにあります。会合の回数が多くなると、保健のことが前より話題にのぼるようになります。そうすると、町や村の事業計画に取り上げられて予算化されますから。そこで私たちは、保健サービスを改善していくことができるというわけです。

Q: 今の達成度は？

A: 7点。もっともっと住民が参加してほしいし、町全体としての取り組みも復活させたい。

ダニーさん

大学を卒業して就職したが、結婚を機に地元に戻り、農業をしながら議員を経て、2003年から村長になる。ニューコレリアの中で一番若い村長。37才。



Q: 1998年にIPHCの研修に参加したそうですね。

A: ええ、でもそこで話される内容も、そういう団体も初めてだったし、SIADについても聞いたけ

ど正直よくわからなかったんです。実際自分が率いる立場になって、だんだんわかってきました。

Q：若いし、年長者の反対にあったりしませんか？

A：それでてこずるということはありませんね。私の支持者か反対派かに関係なく、今や住民参加の場で決まったことが優先されるわけだから。達成度は、う〜ん、7.5点。

ジョエルさん

1991年からニューコレリア町職員。現在産業振興課課長。

(2000年AHI国際研修参加)

Q：IPHICとの関係はいつから？

A：役場に入った翌

年1992年にIPHICの研修に参加しました。実はその時、自分なりの構想を作りました。それはSIADに近いものですよ。

でもその後、役所の中では自分のアイデアを実現する機会もなく、周りの人たちの視野の狭さに嫌気がさして、教会の青年活動を一生懸命やっていました。だから、SIADが始まった時には、やっとその時が来たとすごく嬉しかったんです。

Q：今は何点をつけますか？

A：5点。今やっている村単位の取り組みは、住民参加の基盤として重要だと思うけど、でもやはり、町行政の関りをぜひとも再度引き出したいですね。2005年に町がもうやめると言った時は、本当にがっかりしましたよ。その前の年にフィリピン全国で賞を受けた10の町のうちの一つに選ばれたというのに。

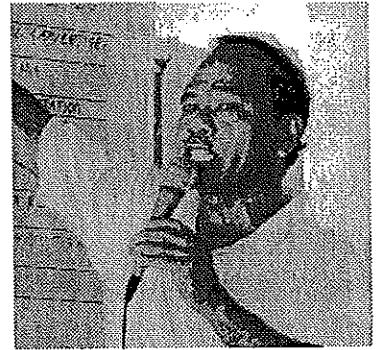
今考えているのは、行政からの住民組織への委託事業。たとえば公設の精米所の運営を農民組織に任せるなど。地元の経済の活性化につなげたいです。



マカさん

ニューコレリアにある組合や住民組織が集まってできた連合体の代表。

18才のときに、ニューコレリアに来た。ココナッツや米を作る農民。



Q：なぜ今の立場に？

A：私はずっと、自分のような農民にとって、役所はとても遠いものだと思ってきた。その距離をなんとか縮めたいと考えたから、農民組合を作ったんだ。もう15年くらいも前のこと。だから、SIADより前に自分流のSIADをやってきた。

組合では、組合員の作った米を集めて近くの町の業者に売るんだが、よい条件で買ってくれるところを選ぶようになった。組合はしっかりしたものになったけど、連合体はできたばかりなので、今の達成度は7点。

アレックスさん

ニューコレリアで一番山奥のマンピンの村長。

(2002年AHI国際研修参加)

Q：あなたの採点
は？

A：8点。人々が参加するようになり、活動が定着してきた。プロセスなくしてSIAD

なし。つまり、住民が地域の課題に取り組まないことには、地域づくりはない。理想論と言われるかもしれないけど、SIADをもっと進めて、参加型の発想とやり方をどんなことにも組み込んでいきたい。



※地方自治を推進する財団より革新的な取り組みを認められ、同町は2004年に「開拓賞」を受賞。

主人公はニューコレリアの人たち

私が質問を始めた時、すぐには応答が返ってきませんでした。もともと緊張していた私は、一層どきどきしながら、1分くらい待ちました。沈黙の後一人ずつ、とつとつと話し出してくれたのが、先に紹介したやりとりです。

それで私は、AHIの地元の日進市役所に勤めるSさんの「地元の人には地元の人のペースがある」という言葉を思い出しました。Sさん自身市職員として、ついつい自分たちの都合で進めてしまうことを常に自戒していらしたのでしょうか。地元の人たち自身が納得して行う進め方に寄り添う。これこそ大切にすべきことだと改めて確認しました。

そして私が嬉しかったのは、ほとんどの人が高い点数をつけたことではなく、なぜその点数をつけたかをどの人もはっきりと言ってくれたことでした。

一人ひとりの見方や判断が表明され、一人ひとりがSIADに確かに関わっていることがうかがえました。私とのやりとりは英語でしたが、流暢ではないけれども素朴な言葉遣いの中に一層それが際立った気がしました。そして、まちづくりは「自分たちのものだ」という共通の素地が感じられたのです。

今後のSIADにおける課題や方向性は、IPHCやAHIが示すものではなく、この地元の人たち自身がはっきりと決めていくことでしょう。その道のりを一緒に歩めることを思うと自分自身が励まされました。

SIADのこと知ってますか？

同行した鳥飼職員が、リンバアン村の小さな食堂で偶然隣り合わせたロレタ・アルボロテさんに聞きました。5歳から16歳までの4人の子どもがいる30歳代の女性。



ええ。私が始めた養豚の事業も、その一環でしょ。うちは土地がないから、ずっと地主のところでもくしかなかった。でも、農民グループができて、その会合に参加したことから、養豚を始めて、最初に育てた豚が7匹の子どもを産んで、その後も順調。また次の子豚も生まれる予定。

グループに参加していると、自分の知ってることを教えたりするし、同時に仲間の考えや情報も聞ける。自分のことだけで忙しい人たちもいるけど、周りの人が自分と違う考えを持っていることの良さを知らなかったり、自分も他の人に貢献できることの楽しさを知らないんだと思う。

これからのニューコレリアのまちづくり

従来AHIは、海外への活動は研修事業に絞ってきましたが、IPHCからの相談を受けてニューコレリア町のまちづくりへの支援（年間180万円）を決定しました。

また、ニューコレリア関係者を国際研修に招き、彼らの経験を他の研修生に積極的に伝えてきました。

AHIは、IPHCと共に2010年までSIADへの支援を継続する予定です。各村での住民参加の取り組みは、少しずつながら着実に進んでいるようですが、今後の持続性を考えると、二つ重点課題があります。一つ目は、町行政としての参画を復活させることです。二つ目は、地域経済の振興です。



2007年度「NGOのアカウンタビリティ強化セミナー」in なごや

開発事業のアカウンタビリティ

(特活)アジア日本相互交流センター
ICANの事例

井川 定一

2007年度「NGOのアカウンタビリティ強化セミナー」in なごや

開発事業のアカウンタビリティ

OUTLINE:

- 1、団体/事業概要(ICANとは?)
- 2、事業のアカウンタビリティ
- 3、まとめ

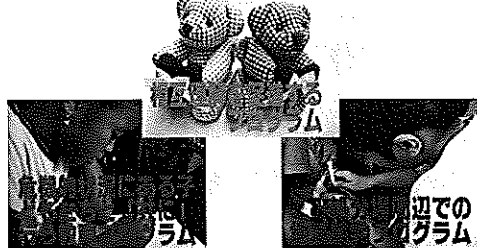
“アカウンタビリティを超えた”会員さんとの信頼成熟

1、団体概要(ICANとは?)

1994年 ICAN設立

「活動母体もなく、資金もなく、経験もなく、まして信用もない」

2007年 現在3つのプログラム



“アカウンタビリティを超えた”会員さんとの信頼成熟

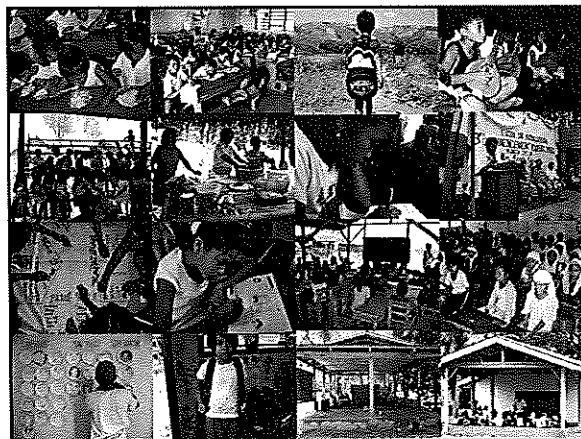
1、団体概要(ICANとは?)

現在の3つのプログラム

(1)危機的状況にある子どもたちと「ともに」おこなう教育プログラム

- ージェネラルサントスの子どもたち
- ー紛争の影響を受けた子どもたち
- ー路上で暮らしていた子どもたち
- ー先住民族の子どもたち
- (ーごみ処分場周辺に住む子どもたち)

■学校に行けるように！
・奨学金提供
・学校環境整備
・学校給食
■「子どもの参加」
・ノンフォーマル教育
(平和教育等)



1、団体概要(ICANとは?)

現在の3つのプログラム

(2)ごみ処分場での地域開発プログラム

- ーパヤタスでの医療・保健事業
- ーパヤタスでの生計向上事業



1、団体概要 (ICANとは?)

現在の3つのプログラム

(3)相互理解を促進するプログラム

- ー開発教育事業
- ーフェアトレード事業
- (ースタディツアー、社会開発研修事業)

“アカウンタビリティを超えた”会員さんとの信頼成熟



1、団体概要 (ICANとは?)

現在の3つのプログラム

“アカウンタビリティを超えた”会員さんとの信頼成熟

1、団体概要 (ICANとは?)

「活動母体もなく、資金もなく、経験もなく、まして信用もない」

人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」

彼ら・彼女らの発展・成長に私たちが参加させてもらい、「ともに」成長する。

「参加型」の開発の必要性

事業地の人々

多くの情報を共有する必然性

会員さん、ボランティアさん、一般市民、助成団体、政府機関、市民団体、等

■インターネットの活用

2、事業のアカウンタビリティ

1、設立～97年 MLはほぼ毎日届けられる。活動に参加。
⇒会員さんと日本事務局の距離が縮まる。

資料① 事業報告書

(実績)

1. 医療活動

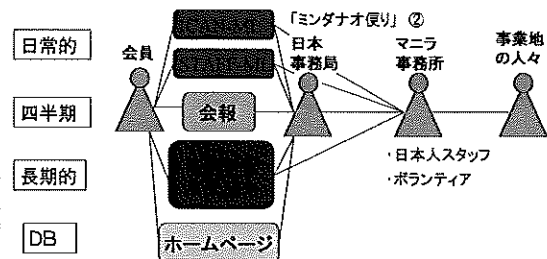
1) 定期診療(毎週火曜日と土曜日) 合計患者数3277名
年合計88回の診療が行われ、患者の7割は17歳未満乳幼児を含む未成年だった。子どもでは急性呼吸器感染症、肺炎、腸内寄生虫、扁桃腺炎、鼻炎、などが、大人では急性呼吸器感染症や皮膚炎、高血圧の患者が多かった。

2) 保健教室

週二回の定期診断に来る外来患者とその付き添い家族に対して、医療や保健衛生の基礎知識を学ぶ機会、
(続く。)

2. 98年～05年

事業地のその日の出来事や事業の様子がMLで流れるようになる。
⇒会員さんと事業地の距離が縮まる。



資料② 「ミンダナオ便り」(ICANML)

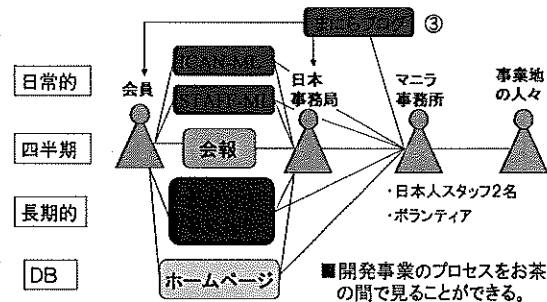
ミンダナオ便り No23>04/08/02 ジョンミゲル君 by 佐藤

小学6年生のジョンミゲル(John Miguel Azucena)君が7月22日に学校で転んで、腕が腫れて痛いとのことで7月26日(月)にLove&Lifeの事務所に来ました。Love&Lifeのスタッフのガーリーさんに同行して私も病院へ行ってきました。

(続く。)

3. 05年～

事業地のその日の出来事や事業の様子が写真付きでほぼ毎日流れるように。



資料② 「ICANまにらブログ」

また歩き始め、50歳くらいの女性が寝ている家で止まりました。マデットさんやガバガット先生がしばらくその女性と話していました。後で、ガバガット先生が「レミ、この人の話を知っているかい？」と私に話し始めてくれました。

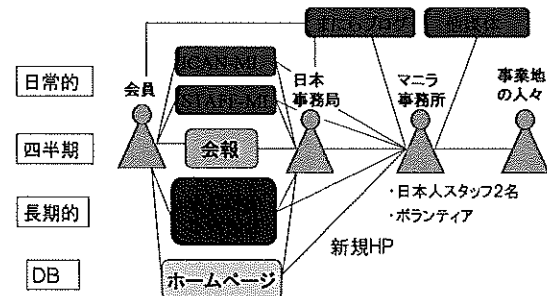
その女性は、3ヶ月前にアウトリーチで結核患者であると診断されました。そのときから、アウトリーチのメンバーはその女性に、バランガイヘルスセンターで治療を受けるようにずっと言ってきました。しかし、彼女はヘルスセンターに行かないのです。その理由をガバガット先生は、「結核だと知られたくないのだろう」と話していました。

(続く)



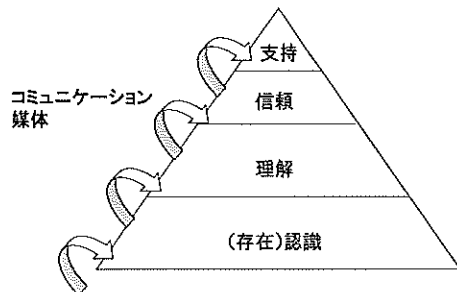
3. 05年～

■ 目的に合わせ、媒体の多様化



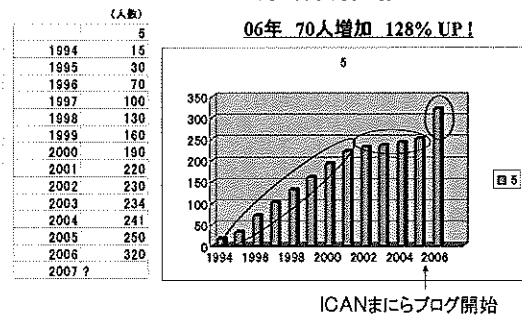
2、事業のアカウンタビリティ

媒体の使い分け



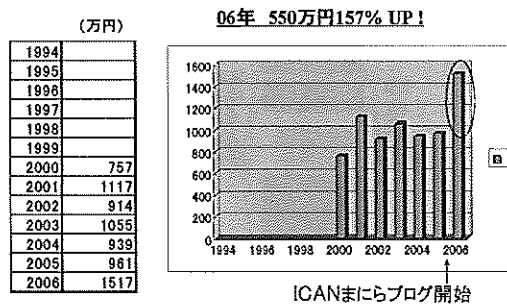
2、事業のアカウンタビリティ

ICAN会員数推移



2、事業のアカウンタビリティ

ICAN自己資金収入



3、まとめ

まとめ

大切なこと。

- 社会に本当に必要な事業をする。
- 様々な媒体を状況に応じて使い分け、できるだけ住民の「リアリティ」に近い形で伝える。
＝事業のアカウンタビリティを高める。
(課題 ■ 住民が伝える。)

以上

ICAN(www.ican.or.jp) まにらブログ

アジアと日本を豊かにするNGO、ICANのマニラ事務所。写真・文の転用は禁止ですが、リンクはフリーです。

[お気に入りブログに登録](#)

バヤタス事業

[\[リスト\]](#)


icanmanilaoffice

人気度


[\[すべて表示\(702\)\]](#)
[\[画像一覧\]](#)

- ▶ [最新日記! New!](#)
- ▶ [キッズパートナー](#)
- ▶ [ICANスタディーツアー](#)
- ▶ [ICANリンク集](#)
- ▶ [活動に参加しよう!](#)
- ▶ [日本での支援](#)
- ▶ [ICAN参加イベント!](#)
- ▶ [サンイシロ事業](#)
- ▶ [バヤタス事業](#)
- ▶ [特集!](#)
- ▶ [ジェネラルサントス事](#)

[\[前の記事へ\]](#)
[\[次の記事へ\]](#)

11月アウトリーチ報告

傑作(0)

2005/11/9(水) 午後 7:10 | [バヤタス事業](#) | [アジア](#)

レミ@まにらです。
8日のアウトリーチの報告をします。

アウトリーチは、いつも14時頃から始まるのですが、その日は15時半頃から始まりました。午前中に100人以上の患者がバランガイヘルスセンターに訪れたので、ガバガット医師たちが缶詰めになっていたからです。お手伝いに行ったマデットさんは、約70人の子どものためにBCGとOPT(三種混合ワクチン)の予防接種をしたと言っていました。

今回は、バランガイヘルスセンターのガバガット医師、ヘルスワーカー、マデットさん、それに保健ボランティアのお母さんたち3人がアウトリーチのメンバーです。私は、先月に続き、二回目のアウトリーチです。今回は前回とまったく違う道を通って回りました。今回も、赤ちゃんと妊婦に予防接種を行いました。



最初に生後5日目の赤ちゃんに予防接種をしました。家に入らせてもらったのですが、小さな家に、6人の子どもと両親が住んでいました。ガバガット先生は両親にファミリープランニングについて話していました。「こんな小さな家で、こんなに子供を育てられないだろう。もっと考えて子どもを作らないと。」

業

- ▶ [ブラカン・ブストス事業地](#)
- ▶ [緊急支援](#)
- ▶ [スタッフとオフィス](#)
- ▶ [ひとりごと。](#)
- ▶ [フィリピン](#)
- ▶ [UP\(フィリピン大学\)への道](#)
- ▶ [研修](#)
- ▶ [0508社会開発スタツア](#)
- ▶ [0508国際理解海外研修](#)
- ▶ [0602ICANツアー](#)
- ▶ [0603社会開発研修](#)
- ▶ [0605ICANツアー](#)
- ▶ [無題](#)

品 投票

- ▶ [サンマルティン](#)

[◀2007▶](#)
[◀7月▶](#)

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

	今日	全体
訪問者	79	64599
ファン	0	40
コメント	0	1153
トラフィック	0	50

[最新の記事一覧](#)


何軒か回ったあと、大きな敷地(たぶん親戚が集まってその場所に住んでいる・ブタも飼っている)の家に行きました。ガバガット先生が赤ちゃんを抱いたお母さんと話をしていると、ガバガット先生といたマデットさんがこっちに来て「誰かOFF(フィリピンの虫除けローション)持ってる?」と聞いてきました。わけを聞くと、この敷地内で、3人がデング熱にかかったということです。そのうち1人はすでに亡くなったそうです。みんな隠然。誰もOFFを持っておらず、体をこすって蚊から身を守りました。



また歩き始め、50歳くらいの女性が寝ている家で止まりました。マデットさんやガバガット先生がしばらくその女性と話していました。後で、ガバガット先生が「レミ、この人の話を知っているかい?」と私に話し初めてくれました。

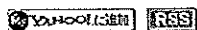
その女性は、3ヶ月前にアウトリーチで結核患者であると診断されました。そのときから、アウトリーチのメンバーはその女性に、バランガイヘルスセンターで治療を受けるようにずっと言ってきました。しかし、彼女はヘルスセンターに行かないのです。その理由をガバガット先生は、「結核だと知られたくないのだろう」と話していました。彼女は一週間前に、歩いていける距離にあり、診療も薬も無料で供給しているバランガイヘルスセンターではなく、ケソン市内の結核専門の病院に行ったといいます。結核の場合、DOTを行うために近くのヘルスセンターに毎日通うことになります。そうすると、近所の人に結核にかかっていることを気付かれてしまうので、遠くの病院に行ったのではないかとガバガット先生は言っていました。しかし、その病院はバヤタスから30kmほど離れていて、交通

- プラアン族のロラ(おば)
- ビキット・ニュースレタ
- プラアン族の子どもたち
- 日本のパートナーさんへ
- 引越し

すべて表示

過去の記事一覧

- 2007年7月
- 2007年6月
- 2007年5月
- 2007年4月
- 2007年3月
- 2007年2月
- 2007年1月
- 2006年12月
- 2006年11月
- 2006年10月


 検索

Yahoo!からのお知らせ

- 初めての方へ
- 使い方がイデ
- Yahoo!ブログをお使いの皆さまへお願い
- あなたの大人力を磨こう。結果をブログにはって楽しめる大人力検定。NEW!
- 海や花火、夏の思い出はケータイでブログに投稿しよう!

最新のコメント

- この文章を全部読ませて
- 返信ありがとうございます
- はじめまして、「みやく
- はじめまして、先週土曜
- 閉山されていません。開

すべて表示

- hot.amature..
- Buy hydroco..
- まったけ日記278—安
- 【障害者】について
- IQ45未満(色身展ラウ

すべて表示

開設日: 2005/3/15(火)

費がかかります。バヤタスでも最貧地区に住んでいる彼女が毎日通うことは不可能です。一週間前に一度行ったとき彼女は病院に行っておらず、家で寝ているだけです。

「これが一番の問題だ。バランガイヘルスセンターの存在も、診療時間も、受けられるサービスも知っていて、自分の病気もわかっているのに、ヘルスセンターに来ない人々がいる。」



「注射は赤ちゃんだけなの？」と聞いてきた幼児を抱いたお母さんがいました。スタッフが幼児の予防接種ならICANのクリニックに来るようにいいました。そのお母さんは、ICANのクリニックが存在することは知っていましたが、診療時間を知らなかった。

ICANセンターの100歩ほどのところに住む赤ちゃんもちのお母さんは、ICANのクリニックの場所も診療時間も知っていましたが、100歩の距離に住んでいるにも関わらず赤ちゃんの予防接種に来ておらず、今回のアウトリーチでマデットさんが行いました。



バヤタスの住民の中で、病気・医療機関に関する知識と健康に関する認識のレベルが違います。例えば、この日ヘルスセンターにきた100人の患者と70人の子どもの親は病気・医療機関に関する知識と健康に関する認識が高いと言えるでしょう。こどもの予防接種をしたいけど診療時間を知らないお母さんは、子どもの健康に関する認

識はあるけど医療機関の知識がありません。

医療機関の情報を十分に得ているのに行かない人は、医療機関の知識はあるけど、自分たちや自分の子どもが疑われる可能性のある病気、あるいはすでにかかっている病気に関しての正しい知識を持っていないので、予防接種や治療をすることがどれだけ大切なことが、必要なことを認識していません。



ICANマニラでは、医療施設が存在を知らない、または、十分な情報を得ていない人たちのために、バヤタスB地区にあるクリニックの位置だけでなくそこで受けられるサービスを載せた簡単な地図を作って、教会やcity hall、サリサリショップなど、人が集まる場所に貼る計画をしています。

病気に関する知識と健康に関する認識を高めるには、教育していくしかありません。クリニックにすれば、診療中や待合室でマデットさんによる結核や家族計画の教育を受けられます。それでも十分とはいえませんが、クリニックやヘルスセンターに来ない人に対して、どうやって病気の知識と健康の認識を高めるかが、大きな課題だと思いました。

コメント(2)

- ☺ すばらしいアイデアだと思います。多くの人に医療施設の存在を知って貰って救いたいというレミさんの優しい気持ち、張り紙というアイデアにつながったのだと思います。そういった地道な活動が大きな効果を生んで行くと思はれます。☺

2005/11/9(水) 午後 10:24 [おか]

- ☺ コメントありがとうございます。張り紙というアイデアは、さださんが教会など人が集まる場所に張るのが費用対効果がよいのではないかと意見を言ってくれて、そうする方向で進んでいます。私一人のアイデアという風に書いて下さっていますが、マデットさんには色々教えてもらっているし、地図はゆかさんに書いてもらう予定だし、私一人のアイデアでも全部一人でやってるわけでもないです。できません(笑)! だから、「ICANマニラでは」って。いいものができると思います。☺

2005/11/11(金) 午前 3:30 [レミ]

ミンダナオ便り No23>04/08/02 ジョンミゲル君 by佐藤

皆さま、こんにちは。

先週は私はずっと病院通いの日々でした。

小学6年生のジョンミゲル(John Miguel Azucena)君が
7月22日に学校で転んで、腕が腫れて痛いとのこと
7月26日(月)にLove & Lifeの事務所に来ました。
Love & Lifeのスタッフのガーリーさんに同行して
私も病院へ行ってきました。

病院は公立の病院で、どこか不潔な感じがしちよつと怖かったです。
レントゲンの結果、骨折。
思いっきり骨が折れて、その骨と骨が離れているのが
レントゲンではっきりとわかります。
危険な状態なので即入院しなければいけないと医者に言われました。
しかし、勝手に入院させるわけにはいかないので、
母親にテキスト(携帯メール)をしました。
返ってきた返事は「入院させるお金がないからそのまま帰らせてくれ」
お父さんがお金のかかる入院には大反対だそうです。
しかし、このままほっておくことはできません。
ちゃんと母親と話し合う為に、
母親にLove & Lifeの事務所に来てもらいました。
そのため、私たちも事務所に戻りました。

お母さんに話を聞くと保険に入っていないそうです。
しかし、Love & Life代表のアンジーさんが、
子どもが可哀想だからすぐ入院させなさいと言いた病院へ戻りました。
こういった場合は、緊急医療支援として会員の皆さまのお金が使われますが、
全額支払いをするわけではありません。
ある程度の自己負担も生じます。
それに毎日病院に通う交通費もない、と言ってお母さんは泣いていました。

ジョンミゲル君は7人きょうだいの上から5番目です。
上の2人のきょうだいはすでに家を出ているので、
今は家族7人で住んでいます。
お父さんは結核で、仕事がありません。

お母さんは洗濯の仕事をしていますが、仕事があるのは週に1回だけです。
仕事は土曜日なので、Love & Lifeの総会は土曜日にあるので
総会に出席するためには仕事を休まなくてはなりません。

高校を卒業したばかりのお姉ちゃん(16歳)が
食品工場で働き一家を養っているそうです。
16歳の少女が一家を支えているなんて...
まだ小さい子ども達が親を支えるという話はここフィリピンではよく聞きますが、
こうやって目の前の現実として聞くと重みが違います。
仕事はナイトシフトで17時から朝の7時まで働いているそうです。
私がこうやってフィリピンに来ている事に対して、
日本にいる家族の世話をしなくてもいいの？と聞かれびっくりしました。
自分が親でもないのに家族の面倒をみるなんて考えた事がありません。
勿論自分の親が年老いてしまった時のことは考えますが、
まだ、自分のことが自分でできる状態の親を金銭面で支えるなんて。
私は子どもというものは親からサポートを受けている状態が
当たり前という中で育ってきました。
しかし、そうではない現実が沢山あるのです。

また、ジョンミゲル君も近くのお店の子どもの送り迎えや、
かばん持ち等をして1回5ペソ(約10円)のお小遣いを稼いでいるそうです。

朝食は1ペソ(約2円)の粉ミルクを買いそれを弟と妹と分けて、
そのミルクをおかずにしてご飯を食べているそうです。
お昼は10ペソ(約20円)でおかずを買いそれを3人で分けているそうです。
学校へ行くのに交通費もかかるので、
家にお金がない日は子ども達は学校を休まざるえないそうです。

お母さんに「日本はお金持ちが大勢いるんでしょ？」と聞かれました。
「どんなに年老いた人でもいいから金持ちの日本人の旦那と取り替えたい」と言いまし
た。
私が「でも、もしその日本人のが悪い人だったらどうするの？
いつもぶたれてたら嫌でしょ？」と私が言うと、
「そうだよねえ、私の旦那はすごく優しいんだよ」と
いつも食事を作ってくれる事や、食器洗いをしてくれるなどと
旦那さんの自慢をしてくれました。

III、バヤタスごみ処分場周辺コミュニティでの開発プログラム

(a)医療・保健事業

(1) 事業内容

マニラ首都圏ケンソン市、バヤタス、ルベン・バガコ第二地区（居住者4784名）とその周辺地区の住民の健康状況の改善のために、ICANコミュニティケアセンターを拠点に医療支援を行った。センターでの診療活動を始め、母親や子どものための保健教室、重病者の病院での治療支援（外部診療）、居住区への巡回診療（アウトルーチ）、栄養不良児のための栄養改善活動などをバランガイヘルスセンターと協力して実施した。2006年は11名の住民のコミュニティ・ヘルス・ボランティア（以下、CHV）が診療活動や栄養改善活動を支え、またケンソン市保健局と協働で実施する結核対策事業において活躍した。2006年から日本人看護師がインテナーとして加わり、事業が更に効果的に実施されるようになった。

(2) 実績

1、医療活動 … 医師・看護師・CHVが協力して実施。

1) 定期診療（毎週火曜日と土曜日） 合計患者数 3277名

年合計88回の診療が行われ、患者の7割は17歳未満の幼児を含む未成年だった。子どもでは急性呼吸器感染症、肺炎、腸内寄生虫、扁桃腺炎、鼻炎などが、大人では急性呼吸器感染症や皮膚病、高血圧の患者が多かった。

2) 保健教室

週二回の定期診療に来る外来患者とその付き添いの家族に対して、医療や保健衛生の基礎知識を学ぶ機会を提供した。栄養改善活動の運営を担う母親たちを対象に、母親学級（月1回）を実施し、また、青少年活動サバイタヨの子ども達を対象にも保健教育（月1回）を実施した。

3) 外部診療補助（随時）

検査や緊急、あるいは高度な治療を必要とし、センターで治療をしない患者を対象に、検査費や交通費、医療費の補助やICAN看護師やソーシャルワーカーの付き添いなどを中心とした外部診療補助を行った。2006年は小児結核を含む結核患者の補助が大きな割合を占めた。2007年からは結核対策を更に充実させ、1つの活動カテゴリーとする。

4) 地域巡回アウトルーチ（第2火曜日）

年間15回、計患者数734名に対して看護師、CHVがバランガイヘルスセンターの医師や助産師同行のもと、コミュニティを巡回し、患者へのフォローアップ、予防接種や母親（妊婦と出産後）のケア、センターでの診療や保健教育への参加を促すなどの活動を実施。（摂取内容：ポリオ・三種混合・肝炎・ビタミン等）

5) 栄養不良児の栄養改善活動（毎週月曜～金曜日）… 母親、看護師、栄養師

週5回3歳児までの栄養不良の乳幼児や小児結核などの病気を患っている子どもを対象に、同活動に参加している子の母親たち（以下、フィードバックマザー）が看護師や栄養師の監督のもと、栄養改善事業を実施した。栄養価の高い補助食の支給をしながら子どもの成長や健康状態をモニタリングした。月に一度

の母親学級では、フィードバックマザーたちが子育てや保健の基礎知識、栄養に関する知識を深めた。が子育てや保健の基礎知識、栄養に関する知識を深めた。

6) 特別活動:

子宮がん検診（3月） 腫瘍摘出手術（4月）、 剖乳（5月）、体重測定（1月、6月、7月、10月）
ビタミンA投与活動（アウトルーチ時に随時）、 寄生虫駆除（8月、10月およびアウトルーチ時に随時）

2、コミュニティ・ヘルス・ボランティア（CHV: Community Health Volunteer）の活動

2006年は11名のCHVが、診療活動での問診、カルテの作成・記録・管理や、保健教室の講師アシスタントとして活躍した。また、さらにそのうちの一部を、コミュニティ内での結核対策のDOTS（直接監視下短期化学療法）トリートメントパートナーとして養成するためにケンソン市と協働で特別DOTS訓練も開催した。（DOTSとは、トリートメントパートナーが日々の患者の服薬を確認することによって、確実に結核を治療する方法。これにより薬剤耐性結核（薬が効かなくなる結核）を作らないことを目指す。）

3、医療NGOや政府機関とのネットワーク作り

1) 行政との連携



バランガイヘルスセンター（地方行政保健所）所属の医師、看護師、助産師、パランガイヘルスワーカーとともに地域医療活動をするため、また結核対策に随いて、ケンソン市保健局とのMOU（事業協働実施契約書）にて、当団体がケアセンターを拠点として第2地区におけるDOTSトリートメントパートナーを担うことが決定した。

2) 連携ミーティング

バヤタスで活動しているNGO、POG（バヤタスオペレーションズグループ：市のごみ処分場管理組織）などの政府機関、住民組織などの関連機関と随時ミーティングや打ち合わせを開き、情報交換に努めた。

(3) 評価

バヤタス第二地区での保健・医療事業は、活動運営の面において、スタッフが不在でも、CHVsやフィードバックマザーだけで活動運営ができており、バヤタス第二地区での保健・医療事業は、まさに地域に居住する住民の、住民による、住民のための事業という形になってきた。当時は、サービスを受ける側であった第2地区に奉仕する保健委員として、患者たちに接するようになった。また、定期診療で医師から処方される薬に随いては、患者が可能な範囲で自己負担することにより、その収益を医薬品購入にまわらせるようになり、このシステムも今年、サービスをj利用する住民の理解を得て、定着化した。

2005年に日本からのボランティアがネットワークなどを通して確を築いた結核対策では、2006年は、さらに、ケンソン市、JICA、ICANの3者協働でのバヤタス第二地区における結核予防活動に乗り出すなど、活動や経験の蓄積が顕微化してきている。生計向上のために開始したフィードバックマザーに対する、活動のサポートは、生活の糧としてののみならず、将来改善予定のケアセンターで、住民が、当団体の段階的なフェーズアウトルーチにあわせて、同質の保健サービスを維持・運営していくためのグループ組織化に大きなプラスの貢献をもたらしている。

(4) 2007年の課題

保健・医療事業に関しては、従来のサービスの質を維持しつつ、資金運営も住民で担うことができるよう住民薬局の運営等をはじめ、あらゆる手段を住民と共に模索し、3年後の2010年にはそのような運営が確立している必要がある。2007年はその大切な1年目となる。

2007年度「NGOのアカウンタビリティ強化セミナー」in なごや
「信頼されるNGO」へ、ステップ・アップ

財団法人 愛知県国際交流協会

栗 木 梨 衣

1. 何のためのアカウンタビリティ? =国際交流協会の事例から=

2. 助成金をゲットする申請書の書き方のポイント =AIA「国際貢献支援事業助成金」の場合=

ポイント 誤字脱字、計算間違いで信頼性を失うのはもったいない!

ポイント 収支予算はできるだけ詳細に記入した方がいいかも

ポイント 「助成金の趣旨」は何なのか、大切にしている点は何なのかを読み取って、
所定の様式にポイントをわかりやすくまとめるようにしましょう!

ポイント 事業の内容だけにとどめるのではなく、将来性・発展性もアピールしよう!

ポイント 日常的なコミュニケーションもやっぱり大切!

3. もう一度、何のためのアカウンタビリティ? =NGOに求められるアカウンタビリティとは? =



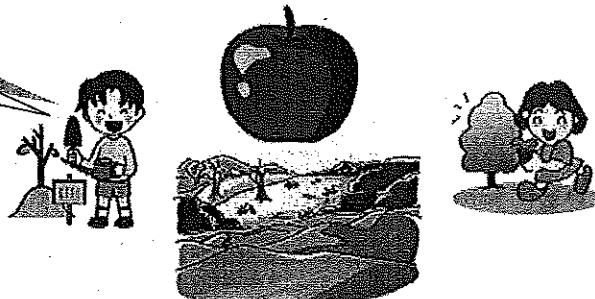
No. 1

プロジェクト名を明示してください。

イラストや図などで、プロジェクトのイメージが連想できるように工夫してください。

沙漠緑化と林檎プロジェクト

project



中国内モンゴル自治区、沙漠化が進む黄河中流域の14村において、沙漠拡大や沙漠化の進行を止めるとともに、絶対的貧困ラインに近い村人の経済的自立を促進するために、換金作物のリンゴの栽培を支援するプロジェクト。

—沙漠拡大/沙漠化による貧困を断ち切る—

relevance

relevanceについてはセミナーで説明します。

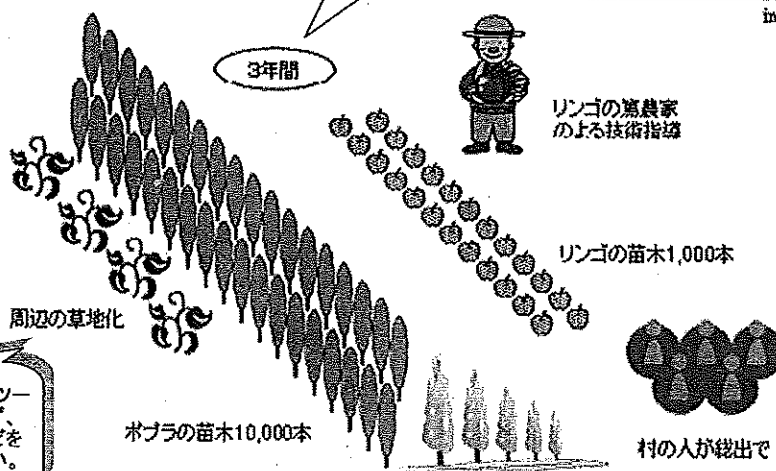
プロジェクトのコンセプトを簡潔に記入してください。

No. 2

プロジェクトに要した年数を明示してください。

プロジェクトに、どのようなインプットをしたのか、まとめてみてください。

input



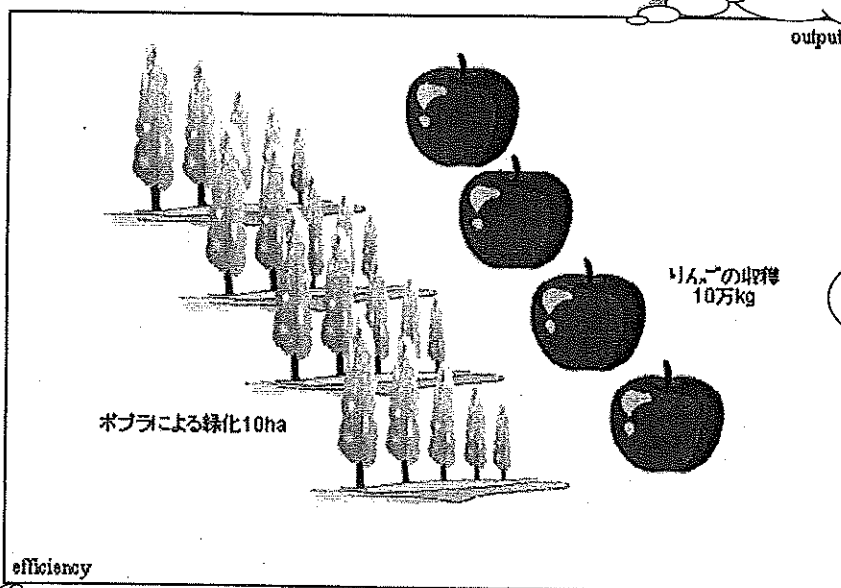
ここでも、ビジュアルツールは、余り文字に頼らず、イラストや図、グラフなどを用いて、まとめてください。

economy

economyについてはセミナーで説明します。

No. 3

プロジェクトを実施した結果、得られたアウトプット(産出)について、簡潔にまとめてください。



できれば、数値で表現されると、よりわかりやすいです。

efficiencyについてはセミナーで説明します。

NGOのアカウントビリティ強化セミナー

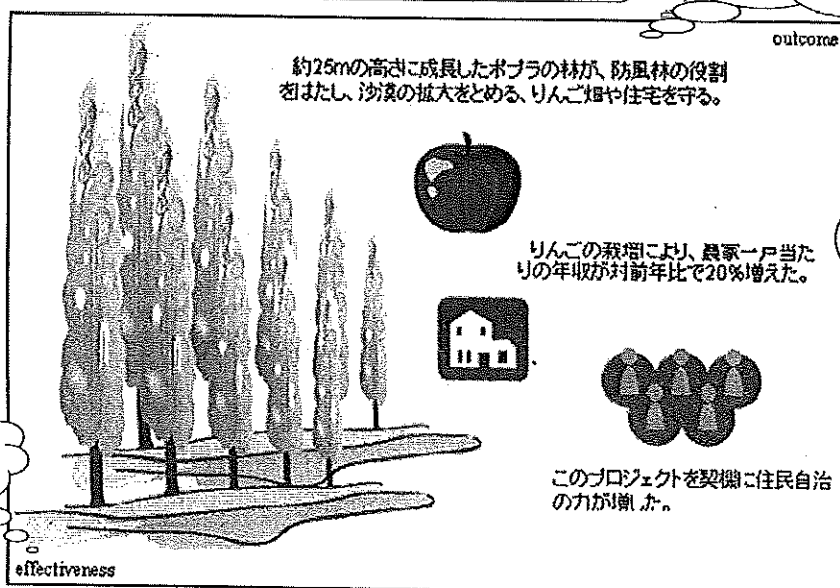
4

NITTA Kazuhiro/KINKI Uni.

No. 4

※アウトプットは産出、アウトカムはそのアウトプットを踏まえた成果です。アウトプットが「モノ」や「かたち」に相当するなら、アウトカムは社会的成果、すなわち、ひとびとの生活や環境の改善、自治や福利の向上などを意味します。

アウトプットを基にしながら得られたアウトカム(成果)についてまとめてみてください。



できれば、ここも数値で表現されると、よりわかりやすいです。

effectivenessについてはセミナーで説明します。

★★★アウトプット(産出)とアウトカム(成果)を結ぶポイントは、So what?(だから、どうなの?)という「二段階思考」です。例えば、交通安全キャンペーンの一環として、飲酒運転の取り締まりを強化したとします。これにより、違反の検挙件数や検挙率が上がったとします。これがアウトプット(産出)です。しかしながら、違反の検挙件数や検挙率を上げることが目的ではありません。So what?(だから、どうなの?)。よって、重要なポイントがどこにあるかという、アウトプット(産出)の結果、交通事故や死亡事故が減少しつつ、交通安全の業績が改善されること、そして市民が安心して歩けるようになること、安全運転を心がけるドライバーが増えること、要するに、これらアウトカム(成果)にあります。

NGOのアカウントビリティ強化セミナー

5

NITTA Kazuhiro/KINKI Uni.

当日配布資料
東京

外務省主催

2007 年 NGO のアカウンタビリティ能力強化セミナー

第 1 部 具体例に学ぶ！初心者のための NGO のアカウンタビリティ教室

〔開催要項〕

■開催日時：2007 年 7 月 30 日(月) 第 1 部：13 時～15 時 10 分(受け開始 12 時 45 分)

■会場：JICA 国際協力総合研修所 東京都新宿区市谷本村町 10-5

■ファシリテーター：下澤嶽 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター 事務局長

■講師：片山信彦氏 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長
：小林毅氏 特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 理事・事務局長

(順不同)

〔プログラム〕

1. 主催者ご挨拶：寒川富士夫氏 外務省 民間援助連携室 室長

2. アカウンタビリティを具体例から学ぼう！

i) 13:10～ ガバナンス編

講師：片山信彦氏

★組織のガバナンスを中心にアカウンタビリティの具体例をお話します。

ii) 13:55～ 活動・事業編

講師：小林毅氏

★情報公開や事業実施に伴う具体例についてお話します。

iii) 14:40～ 参加者間の意見交換＋質疑応答



運営：(特活) 国際協力 NGO センター

運営協力：(特活) 関西 NGO 協議会、(特活) 名古屋 NGO センター

外務省主催

2007 年 NGO のアカウンタビリティ能力強化セミナー

第 2 部 日本NGO連携無償協力にかかるアカウンタビリティ

〔開催要項〕

■開催日時：2007 年 7 月 30 日(月) 第 2 部：15 時 30 分～17 時 10 分(受付開始 15 時 15 分)

■会場：JICA 国際協力総合研修所 東京都新宿区市谷本村町 10-5

■ファシリテーター：下澤嶽 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター 事務局長

■講師：石原圭子氏 外務省 国際協力局 民間援助連携室

〔プログラム〕

1. 主催者ご挨拶：寒川富士夫氏 外務省 民間援助連携室 室長

2. i) 15:35～ 日本NGO連携無償協力のアカウンタビリティ

★外務省側の視点からN支のアカウンタビリティについてご説明します。

ii) 16:30～ 意見交換+個別相談

★寒川氏と講師及び参加者間の意見交換と、講師への個別相談の時間です。



運営：(特活) 国際協力 NGO センター

運営協力：(特活) 関西 NGO 協議会、(特活) 名古屋 NGO センター

Ch[★]ldFund
Japan

**アカウントビリティを具体例から学ぼう！
活動・事業編**

特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン
事務局長 小林 毅

©ChildFund Japan All Rights Reserved 1 22/5/27

Ch[★]ldFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンとは

- 1975年からアジアを中心に子どもたちの健やかな成長と、地域の自立を目指して国際協力事業に携わるNGO(非政府組織)です。
- 年間予算は約3億円。
- 4,000人のスポンサーと1,500人のプロジェクト・サポーターによって支えられています。

©ChildFund Japan All Rights Reserved 2 20/5/27

チャイルド・ファンド・ジャパンについて ～歴史～

Ch[★]ldFund
Japan

Year	1948年	1952年	1975年	2005年
主な出来事	アメリカの民間団体、キリスト教児童基金(CCF)が日本の戦災孤児を支援	CCF日本事務局として社会福祉法人基督教児童福祉会(CCWA)設立	CCWA国際精神児童運動部新設フィリピンへの支援活動開始	CCWA国際精神児童運動部はチャイルド・ファンド・ジャパンとして活動開始

支援される国から支援する国へと「愛のバトンタッチ」

©ChildFund Japan All Rights Reserved 20/5/27

Ch[★]ldFund
Japan

ビジョンとミッション

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ここに掲げるビジョン(目標)とミッション(使命)に基づいて活動します。

- **ビジョン(目標)**
すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成
【子どもたちの笑顔のために】
チャイルド・ファンド・ジャパンは、第二次世界大戦後、日本の戦災孤児の成長を守ることに活動を始めました。時代が変り、活動地域が広がっても、そこに一人ひとりの子どもが希望を持って生きることのできる社会を目指す姿勢は変わりません。
- **ミッション(使命)**
生かす生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る
【愛のバトンタッチ】
チャイルド・ファンド・ジャパンは、ビジョンを達成するために、私たちスタッフを合わせて、支援を通じてつながるすべての人々が、様々な違いを超えて、お互いが人生に意味を見出し、「生きていてよかった」と思える国際協力を実現することを通して、子どもの権利を最優先に位置づけた活動を展開します。

©ChildFund Japan All Rights Reserved 4 20/5/27

Ch[★]ldFund
Japan

協力関係は永遠に！

- 1984年フィールド・ワーカー(フィリピン)として得た経験
 - － ハンセン病患者のコロニーで子どもたちの給食サービス支援事業を実施
 - － 出張で訪れた本部職員に付き添って、支援事業を視察
 - － 事業実施団体の責任者に、「あとどのくらいの期間、支援が必要か？」と尋ねると

「協力関係は永遠に！」

©ChildFund Japan All Rights Reserved 5 20/5/27

Ch[★]ldFund
Japan

**アカウントビリティを考える際
はまり易い落とし穴**

- 寄附者やドナーを意識するが、カウンターパート(事業の共同実施者であるNGOなど)を意識し忘れる
- 協力関係を構築する際、理念、目標、プログラム、役割分担への要求など伝え、理解してもらう
- 文書化する

©ChildFund Japan All Rights Reserved 6 20/5/27

Ch[✱]ldFund
Japan

関係を明文化する 協力覚え書の交換

－ 共通目標の確認

例：
ChildFund Japan and the CENTER desire to enter into an agreement to undergo a liberating process by which both parties can transform themselves and the people they work with into more humane and dignified individuals, families and communities based on the principle of international cooperation and understanding

－ 役割分担の明確化

例：
THE CENTER AGREES TO: SUBMIT to ChildFund Japan, a long-range plan that will outline its programs, objectives and strategies designed to achieve its goals. Such long range Development Plan should include proposals for the following program components: Child and Family Development, Poverty Alleviation and Institution Building.

©ChildFund Japan All Rights Reserved 7 2006/2/27

Ch[✱]ldFund
Japan

情報公開に関わる重い決断

- 支援先20ヶ所の1988年度会計監査により、1ヶ所で組織的な資金の不正使用の疑いが指摘された。
- 1989年度中に追加の監査と共に、事情聴取を行ない、不正使用が確定した。
- その結果、1989年度末(1990年3月末)をもって支援を終結する決定を行い、支援者に公表した。

©ChildFund Japan All Rights Reserved 8 2006/2/27

Ch[✱]ldFund
Japan

不正の発覚は体制整備の成果

- 1986年にフィリピン事務所を開設した際は、日本人事務所長、フィリピン人プロジェクト・コーディネーター1名、フィリピン人会計(簿記)担当1名でスタート
- 1987年には、フィリピン人プロジェクト・コーディネーター1名を増員して業務監査(支援事業のモニターと評価)の体制を作り、公認会計士資格を持ち、監査会社での勤務経験を有する職員を確保して、会計監査の体制の確立した

©ChildFund Japan All Rights Reserved 9 2006/2/27

Ch[✱]ldFund
Japan

アカウンタビリティを向上する

- ステークホルダーを分析する(寄附者及びドナー以外のステークホルダーを意識する:事業の共同実施者や職員は見落とし易い)
- アカウンタビリティを果たし、それを向上するには、組織の整備、開発&強化なしに出来ないことを理解する

©ChildFund Japan All Rights Reserved 10 2006/2/27

NGOのアカウンタビリティ能力強化セミナー

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
片山 信彦

2007. 7. 30

本日の内容

I. アカウンタビリティとは何か、なぜ重要なのか

II. 組織全体に関連するアカウンタビリティ

- (1) ガバナンス・コンプライアンス
- (2) 効率的運営
- (3) 職員へのアカウンタビリティ
- (4) 危機管理
- (5) 情報開示
- (6) プロセスと評価、改善への仕組み

I. アカウンタビリティとは何か、なぜ重要なのか

- (1) 「NGOのアカウンタビリティ向上のための行動基準」参照
「ステークホルダーのニーズ・期待に積極的に応え、
NGOの社会的有用性と正当性を高めるために」
- (2) 「2006 Global Accountability Report」
評価基準：
透明性、参加、評価、コンプライアンス・改善メカニズム

II. 組織全体に関連するアカウンタビリティ

(1) ガバナンス・コンプライアンス

ミッション、ビジョンの明確化とその徹底
総会、理事会の権限、責任、役割等の明確化と実際
意思決定過程、職務分掌・権限の明確化
会計、財務の明瞭化
労務管理、各種規則関係の整備
外部監査

(2) 効率的運営

経費率
現地への送金率
経営分析の必要
職員の能力強化、研修の重要性
ITの活用

- * WVJ具体例紹介
- 最低75%送金(管理費1.79%)
 - 募金活動への媒体別投資効果測定
 - 2週間に一度の経営分析
 - 3つのレベルでの職員研修
 - IT活用による情報の共有化

(3) 職員へのアカウンタビリティ

職員への伝達方法とフィードバック

- * WVJの実例紹介
- ビジネス・ミーティング
 - 事務局長ブリーフィング
 - SMT議事録の公開
 - 事務局長ニュースレター
 - Peer Review
 - 参加型3年計画作り
 - 各種タスクフォース、委員会

World Vision

(4)危機管理

IT Policy
Child Protection Policy
商標登録
危機管理マニュアル

* WVJ危機管理マニュアルの紹介

World Vision

(5)情報開示

信頼を得るための情報提供(必要な情報を見やすく)
個人情報保護ポリシー

* WVJホームページ、年次報告書参照

World Vision

(6)プロセスと評価、改善への仕組み

民主的なプロセス
組織評価
評価の結果を受けての改善の仕組み
新たな目標設定への仕組み

* WVJ具体例紹介
職務権限に基づく決定
Peer Review
参加型3年計画作り

事前配布資料（チラシ）

2007 年度「NGO のアカウンタビリティ強化セミナー」 in 関西

「信頼できる NGO」になろう

～アカウンタビリティが NGO を成長させる～

NGO を支える、支援者や協力団体との信頼関係。

しかし NGO が思いや実績を伝えなければ、支援も協力も得られません。

しっかり伝えているつもりが、どこか空回りになっていませんか？

活動の背景にあるメッセージや活動内容を、相手に応じた表現でわかりやすく伝える工夫ができていますでしょうか？

相手に伝わる表現で説明する工夫が NGO の信頼度を高め、多くの人や団体を巻き込んで活動の可能性を大きく広げていく事につながります。

今回のセミナーでは、そのために必要な「アカウンタビリティ」の基本を踏まえ、団体独自のコミュニケーション方法を作り上げていくためのヒントを提供します。

日 時：2007 年 7 月 21 日（土）13 時 30 分～17 時 30 分（受付開始 13 時）

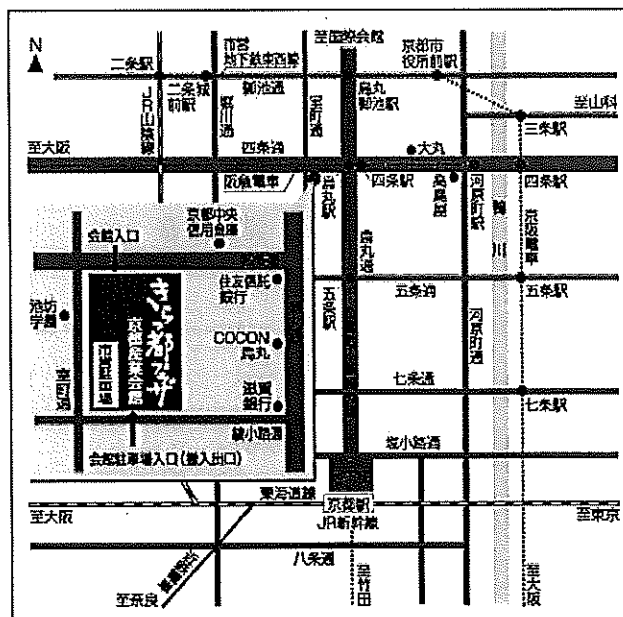
会 場：京都産業会館 レンタルスペース第 1
（京都市下京区四条通室町東入ル）
地下鉄烏丸線「四条駅」・阪急京都線
「烏丸」駅下車 徒歩約 2 分

参加費：無料

お申込：裏面のフォームにご記入の上、
関西 NGO 協議会までお申込ください。

参加対象：国際協力 NGO の活動に携わっている方
（有給／無給・専従／非専従は問いません）

★セミナーで学んだ事を実践する為には、異なる担当（会員担当、プロジェクト担当、広報担当など）を持つ組み合わせで 1 団体 2 名以上の参加が効果的です。特に、①これから活動を広げていこうという中小規模の団体②新人スタッフの皆様の参加をお勧めします。



主 催：外務省

運 営：（特活）国際協力 NGO センター

運営協力：（特活）関西 NGO 協議会、（特活）名古屋 NGO センター

■プログラム内容■

全体コーディネーター：伊藤 公男さん（特活）関西 NGO 協議会会員

13:30～14:20 グループワークと講義：アカウンタビリティはなぜ必要？

講師：新田 和宏さん 近畿大学生物理工学部教員、地球市民教育総合研究所長
アカウンタビリティを実践することは、NGO にどんな成果をもたらすのでしょうか。
ケーススタディを通じて、活動を説明する事の意義をしっかりと理解します。

14:20～15:20 模擬コンペ：支援団体に対するアカウンタビリティ

講師：松吉 徹也さん 松下電器産業株式会社 社会文化グループ
フィランソロピーチーム主事

企業や助成財団は、NGO にどのようなアカウンタビリティを求めているのでしょうか。
参加団体のプレゼンテーションを講師陣が採点し、講評セッションを通して支援団
体が求めるアカウンタビリティについて理解します。

15:20～15:35 休憩

15:35～16:20 講義：支援者に対するアカウンタビリティ

講師：和田 美穂さん（社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
支援者が求めるアカウンタビリティを理解し、相手に応じたコミュニケーションを
取る事は容易ではありません。NGO の経験談から、実践へのヒントをつかみます。

16:20～16:50 講義：アカウンタビリティの実践システム

講師：新田 和宏さん
今回気づいた事を多忙な日常活動の中に落とし込むには、頭の整理が必要です。
活動の各局面におけるアカウンタビリティを押さえ、明日からの実践につなげます。

16:50～17:05 休憩

17:05～17:30 質疑応答

-----申込フォーム-----

※ご記入頂く情報は、本セミナー範囲内でのみ利用させていただきます。

お 名 前： 担 当 ・ 役 職：

団 体 名：

E メールアドレス：

T E L 番 号： F A X 番 号：

-----送信先：06-6377-5148 knc@ak.wakwak.com-----

★宿題について★参加者の皆さまには、事前に宿題（活動紹介 4 コマシートの作成）を提出していただきます。
セミナーの成果を実際の仕事に活かす為に、必ずご提出下さい。詳しくは、申込確認時にお知らせ致します。

■申込み・問合せ先■

特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会
<http://park15.wakwak.com/~knc/>
〒530-0013 大阪市北区茶屋町 2-30
TEL：06-6377-5144 FAX：06-6377-5148
E メールアドレス：knc@ak.wakwak.com

「信頼される NGO」へ、ステップ・アップ



NGO 活動をしていて、こんな苦勞はありませんか？

- 「一生懸命やっているのに支援の輪が広がらない。」
- 「活動内容がわかりにくいと言われた。」
- 「寄付金が集まらない。」
- 「助成金申請が通らない。」



NGO がそれぞれのミッションを果たしていく基盤は、様々なステークホルダー（関係者）との信頼関係にあります。信頼され、応援される NGO になるためには、アカウンタビリティを向上させることが重要です。では、どうすれば、アカウンタビリティを向上できるの？今日から使える、「アカウンタビリティのコツ」を身につけ、団体としてステップ・アップしていきましょう！

日 時： 2007 年 7 月 28 日（土）13 時 30 分～17 時 30 分（13 時受付開始）

会 場： COMBI 本陣 N 棟 106 共同会議室

（地下鉄東山線本陣駅 3 番出口徒歩 1 分、旧本陣小学校）

参加対象： NGO 活動に携わっている方

団体の法人格の有無は問いません。事務局責任者、プロジェクト担当者、など、1 団体から複数の方に参加していただくと効果的です。学生団体も歓迎します。

参加費： 無料 * プログラムは裏面をご参照ください。

お申し込み方法：裏面のフォームにご記入の上、ファックスもしくはメールにて、下記問い合わせ先まで、お申込ください（締め切り 7 月 23 日【月】）。

主 催： 外務省

運 営： （特活）国際協力 NGO センター（JANIC）

運営協力：（特活）関西 NGO 協議会、（特活）名古屋 NGO センター

問い合わせ・お申し込み先

（特活）名古屋 NGO センター 事務局

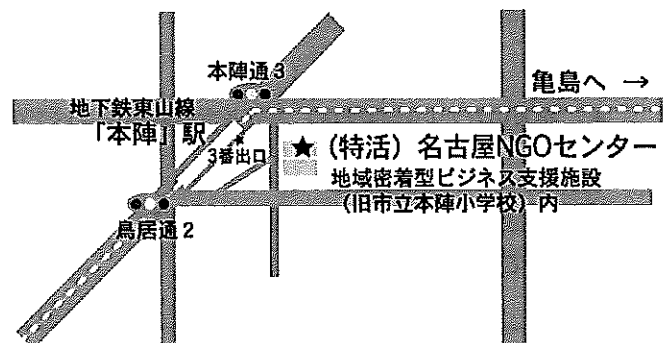
〒453-0021 名古屋市中村区松原町 1-24

COMBI 本陣 N206

TEL：052-483-6800 FAX：052-483-6801

E-mail：info@nangoc.org

URL：http://www.nangoc.org/



※本セミナーは、2007 年 2 月 3 日に開催した、『2006 年度「NGO のアカウンタビリティ強化セミナー in なごや」』と比べ、より実践的な内容となります。アカウンタビリティについての基礎的な概念については、一部重複してご説明します。2006 年度に参加された方もどうぞご参加ください！！

2007 年度「NGO のアカウンタビリティ強化セミナー」in なごや

◆プログラム◆

13:30	○ コーディネーターあいさつ ○ 参加者自己紹介	小池康弘（【特活】名古屋 NGO センター事務局長）
13:45	第1部 実践から NGO のアカウンタビリティを考える ○ ワークショップを行い、参加団体自身のアカウンタビリティのあり方について、みんなで考えます。 ○ リソース団体から、リソース団体自身のアカウンタビリティのツールを紹介していただき、「今すぐ使える」アカウンタビリティのスキルについてお話します。	ファシリテーター：壽賀一仁さん（日本国際ボランティアセンター（JVC）事務局次長） リソース・パーソン：林かぐみさん（財団法人アジア保健研修財団事務局長）、井川定一さん（【特活】アジア日本相互交流センター（ICAN））
15:45 - 16:00 休憩		
16:00	第2部 中部地域の NGO を取り巻くステークホルダーとアカウンタビリティ ○ 10 年以上、地域の NGO/NPO 団体と「協働」を行ってきた経験から、地域の NGO に求められるアカウンタビリティのあり方について、お話をいただきます。	進行：栗木梨衣さん（財団法人愛知県国際交流協会）
16:40	第3部 NGO 活動におけるアカウンタビリティとは？ ○ 第1部のワークショップ、第2部のお話を踏まえ、活動に内在するアカウンタビリティ、また、アカウンタビリティの表出と信用・信頼の構築についてお話をさせていただきます。	進行：壽賀一仁さん（日本国際ボランティアセンター（JVC）事務局次長）
17:20	振り返りとまとめ	小池康弘
17:30	終了	

☆終了後、交流会を予定しています。

◆ここがオススメ！◆

第1部：講師の壽賀さんと一緒に、実利！につながるアカウンタビリティを考えます。

第2部：AIA の栗木さんからは、「すぐに使える」申請書ワンポイントアドバイスもあります。

..... 申し込みフォーム

* ご記入いただいた情報は、本セミナー実施の目的でのみ利用させていただきます。

団体名：_____

参加者ご氏名（ふりがな）：

① _____ ② _____

③ _____

連絡先

住所：_____

電話・FAX

E-mail: _____

FAX 送信先：052-483-6801 メールでのお申し込み：info@nangoc.org（締切：7月23日【月】）

外務省主催

2007 年 NGO のアカウンタビリティ能力強化セミナー

第 1 部：具体例に学ぶ！初心者のためのアカウンタビリティ教室

第 2 部：日本 NGO 連携無償協力にかかるアカウンタビリティ

JANIC は、昨年に引き続きアカウンタビリティセミナーを運営します。今年は、アカウンタビリティ初心者向けの第 1 部と、N 支にかかるアカウンタビリティについて外務省民連室の方からお話する第 2 部との 2 部構成です。

第 1 部は、具体例から NGO のアカウンタビリティについて学ぶことを目的としています。NGO スタッフとして活動していく際に、何がどんな風にアカウンタビリティとかわかっているのか、活動経験を基にお話します。

第 2 部では、外務省民連室の担当官から N 支のアカウンタビリティについてお話させていただき、また、別途個別相談の時間も設けますので、事前に質問やコメントをご送付の上ご参加ください。

皆さんのご参加をお待ちしております！

〔開催要項〕

■開催日時：2007 年 7 月 30 日(月)第 1 部：13 時～15 時 10 分(受け開始 12 時 45 分)

第 2 部：15 時 30 分～17 時 10 分(受付開始 15 時 15 分)

■会場：JICA 国際協力総合研修所 東京都新宿区市谷本村町 10-5

<http://www.jica.go.jp/branch/ific/map/index.html>

●JR 中央線・総武線「市ヶ谷」 徒歩 10 分 ●東京メトロ有楽町線「市ヶ谷」6 番出口 徒歩 10 分

●東京メトロ南北線「市ヶ谷」6 番出口 徒歩 10 分

■定員：各部とも 50 名 ■締め切り：定員になり次第締め切り

第 1 部 具体例に学ぶ！初心者のための NGO のアカウンタビリティ教室

■参加対象：国際協力 NGO の業務に従事し、「NGO のアカウンタビリティ」については初心者の方々

(上級者の方のご参加も歓迎しますが、初心者向けの内容です)

■ファシリテーター：下澤嶽 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター 事務局長

■講師：片山信彦氏 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長

：小林毅氏 特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 理事・事務局長

(順不同)

〔プログラム〕

1. 主催者ご挨拶：寒川富士夫氏 外務省 民間援助連携室 室長

2. アカウンタビリティを具体例から学ぼう！

1) 13:10～ ガバナンス編

講師：片山信彦氏

★組織のガバナンスを中心にアカウンタビリティの具体例をお話します。

ii) 13:55～ 活動・事業編

講師：小林毅氏

★情報公開や事業実施に伴う具体例についてお話します。

iii) 14:40～ 参加者間の意見交換＋質疑応答

★ 参加者の皆さんも、講師陣やファシリテーターと、NGOのアカウンタビリティについて議論を深め、NGOのアカウンタビリティを向上させることにどうぞ参加ください。
(プログラムには変更の可能性があります)

第2部 日本NGO連携無償協力にかかるアカウンタビリティ

■参加対象：日本NGO連携無償協力(NGO支援無償資金協力)を利用しているNGOの方々、

NGO活動に関心のある方々

■ファシリテーター：下澤嶺

■講師：石原圭子氏 外務省 国際協力局 民間援助連携室

〔プログラム〕

1. 主催者ご挨拶

2. i) 15:35～ 日本NGO連携無償協力のアカウンタビリティ

★外務省側の視点からN支のアカウンタビリティについてご説明します。

ii) 16:30～ 意見交換＋個別相談

★寒川氏と講師及び参加者間の意見交換と、講師への個別相談の時間です。

(プログラムには変更の可能性があります)

お申し込み

■参加費：第1部・第2部とも無料です。

■申込み：以下のフォームにご記入の上、JANIC事務局（担当：荒瀬）まで、標題を「アカウンタビリティセミナー第1部あるいは第2部あるいは第1・2部 参加希望」としてお申し込みください。
第2部にご参加の方は、7月24日（火）14時までにご質問・コメントをメールあるいはFAXにてご送付ください。

〈申し込みフォーム〉

- ・ お名前
- ・ ご所属団体
- ・ ご担当・お役職
- ・ メールアドレス及び電話番号
- ・ 第2部参加の方のみ、ご質問・コメント（いくつでも結構です）：
- ・ 第2部参加の方のみ、個別相談希望について 有・無

■お申込み・問合せ先：（特活）国際協力NGOセンター（JANIC）

人材育成担当 荒瀬 (arase@janic.org) Tel 03-5292-2911 Fax 03-5292-2912

運営：（特活）国際協力NGOセンター

運営協力：（特活）関西NGO協議会、（特活）名古屋NGOセンター

